

# ファースト・コンタクト3

## 真実が明らかにされていく地球



### スター・ピープル達の来訪 目次

- 第1章 闇の世界から復活したスター・ピープル
- 第2章 奪われそうになった地球の未来
- 第3章 創造主に試練を与える創造主のたくらみ
- 第4章 愛の度合いとアセンション
- 第5章 学びの世界に残る神と新しく生まれる神
- 第6章 悲しみのアセンション会議
- 第7章 シャンバラの聖者の来訪
- 参考資料 光りの世界の区分

作者 瀬戸武志&宇宙の光

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 HP <http://s-sun1.com>

アメブロ 光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI [hikari@k-suai.com](mailto:hikari@k-suai.com)

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

# 第1章 闇の世界から復活したスター・ピープル

## PART1 動物の生育を見守るスター・ピープル

2016年の8月は、この天の川銀河にとってもさらに素晴らしい時となりました。

古代シリウスの叡智あふれるスター・ピープルであるジャラッド星人達が7月末に、深い闇の中から助け出されましたが、それに引き続き同じシリウス系のスター・ピープルが、再び目覚めることになったのです。

そして「狂気の創造主」によって、正当な理由もなく闇に落とされたいくつもの星々のスター・ピープル達が地球のアセンションを前に次々と復活することになりました。

もし、私達がアセンションをやり遂げてしまえば、彼らが落とされている闇の世界とは、私達は一切かわれなくなりますので、彼等が存在している闇の世界には一切入って行くことが出来ません。

地球のアセンション前のこの時期が、彼等にとっては最後のチャンスとなるようです。

特に「狂気の創造主」の動きを注視してきたロッド星人達にとっては、自分達のパートナーとなるべき優秀なスター・ピープル達が、何種族も「狂気の創造主」によって闇に落とされてしまったのは、耐え難い悲しみでした。

いくつもの優秀なスター・ピープル達を育て、彼らに天の川銀河の発展を託していただけに、「狂気の創造主」の暴挙は許しがたい物だったのです。

私達は、ロッド星人と共に、アセンション前の最後のチャンスに望みをかけるスター・ピープル達を救い出すことにしました。

今回は、その中でも重要なスター・ピープル達を4種族ご紹介しましょう。

ある朝、美樹さんは奇妙な夢を見ました。

美樹さんが見た夢は、猫やネズミのような小さな生物が巨大化して、大きなライオンや象が小さくなっている夢でした。

その世界は、いつも虐待されている動物たちの悲しみや苦しみ、憎しみに満ち溢れています。

そこに生きる猫たちは、かわいい存在ではなく、自分達が虐待された恨みをこの世界で晴らそうとしているようでもありました。

そして、別のシーンに移り変わります。

そこには、希望を失って力なく過ごしている猫や犬などの動物達があります。

ずっと人間達に飼われていたにも関わらず、人間達から見放されて邪魔物扱いされていたような動物達です。動物園で飼われていたようなライオンや象、キリンのような動物達もいますが、彼等も絶望しきっています。ただすべてを諦めて死をまっているような姿です。

また別のシーンに変わります。

そこには、希望を失った人間達が、列車にうつろな目をして乗り込んでいます。

列車に乗ってもお互いが寄りかかるような状態で全く無気力です。

そして駅に着くと、まるで列車から吐き出されるように列車から出てきて同じ方向に向かって力なく歩いていきます。

私達は、この夢の意味を探るために、この夢のエネルギーがどこから来ているのか探すために、ピカフラッシュに頼んで、夢につながっているラインを辿っていきます。

するとこの夢は、地球の人々や動物たちの潜在意識と深くつながっています。

今、地球のアセンションを前に、このような虐げられた人間や動物たちの感情が、地球の奥深くから沸き起こってきているようです。

私達は、この感情を操っている地球外生命体達がいらないか調べるために、さらにピカフラッシュに探索をお願いします。

すると、深い闇に沈んだ星が見えてきました。

7月の末に深い闇の世界から復活したジャラッド星が、その星を食い入るように見えています。

「TAKESHI さん、この星は、私達とも関係が深かったシリウス星系の星です。

おそらく私達と同じように「狂気の創造主」によって、深い闇の中に落とされたのだと思います。

そして、その苦しみや悲しみを、地球に住む人の潜在意識を通して、TAKESHI さん達に伝えてきたのではないのでしょうか。

どうか、彼らを助けに行ってください。」

すぐに私達は、フェニックス号に乗って、その星に向かいました。

もちろん、この星を闇に落とした張本人である元「狂気の創造主」を連れて。

フェニックス号が星に近づくと、とても大きな憎しみや悲しみのエネルギーにあふれています。

彼等は、ジャラッド星よりはまだ若いスター・ピープル達でしたので、自分達が闇に落とされたときに、自分達の感情を綺麗に浄化することが出来ずに、その感情に捕らわれているようです。

私達はまずその星に浄化の光を送りました。

星の中に立ち込めた重苦しいエネルギーが少しずつ少なくなり軽くなりました。

その時をねらって、元「狂気の創造主」である「全ての意識を成長させる創造主」がいきなり星を光の世界に引き戻してきます。

星が、私達と同じ世界に戻ってきました。

この星は、シリウス星系に会った古代シャルロッド星人であることが分かりました。

彼等も古代ジャラッド星と同じように、正義と規律を守り、「宇宙の愛」に基づき進化を繰り返してきた星々のようです。

私達は、復活した彼等と呼び、話を聴くことにしました。

## PART2 シャルロッド星人からのメッセージ

私達は、ジャラッド星人と同じように、狂気の創造主のために、闇の世界に落とされたものです。

私達が、闇の世界に落とされたのは、ジャラッド星人よりもはるかに後の時代で、シリウス星系が核戦争の

危機に瀕していた時でした。

私達は、自分達のマスターとも呼ぶべきジャラッド星人達をうしない、狂気の創造主の闇によって洗脳されたシリウス星系の人々によって絶え間なく争いを繰り返していました。

昔は叡智にあふれ、人間性と科学技術のバランスが取れていたシリウス星系ですが、凶悪な生命体達が入り込んできたために、シリウス星系の星々も精神性よりも科学技術の進化を重んじるようになってきました。

私達のもっとも基本である「宇宙の愛」は、凶悪な生命達によって無残にも破壊され、シリウス星系の星々は、破壊と侵略をむさぼる星々へと変わっていったのです。

そして日増しに核戦争への危険性が増大していきました。

我々はいくらなんでも核兵器は使用しないだろうと考えていましたが、核兵器が大好きなグラッド星人達の手に堕ちた長老たちは、お互いの侵略戦争をさらに過激なものにするために、核兵器の使用を現実のものとして考えていました。

いくつかのシリウス星系の星の人々は、自分達の星の指導者がすでにシリウス人ではなく、彼らの体に乗っ取ったグラッド星人であることに気づいたのです。

其れも一つや二つの星ではなく、シリウス星系の戦争に加担している星々やその星を陰で支配している星の指導者達も、すべてグラッド星人やその手先達によって動かされていたのです。

私達のように平和を愛する者は、シリウス星系のどの星にもいます。

私達は、ひそかに連絡を取り合い、星々の指導者たちを、何とかグラッド星人やその手下たちから引きはなしまでもな状態にできないかと、何度も話し合いました。

しかし、現在の状況では、星の指導者とその指導者に成りすましたグラッド星人達を処理することは困難を極めました。

中には、指導者たちを暗殺するしかないという過激な意見も出ました。

あるいは、宇宙連合に助けを求めるほうが良いという意見も出ました。

しかし、指導者を暗殺したところで、星の運営を行う者達のほとんどが、グラッド星人達の手下になっているでしょうから、指導者を暗殺してもすぐに次の指導者が出てきます。

しればかりか、暗殺を計画したことで、我々だけでなく我々の親族や友人たちがすべて捕えられ、報復として殺されてしまうでしょう。

また宇宙連合も、その中心メンバーに多くのシリウス人が入っていますので、彼等に見つかりと情報はうやむやにされ、同じような報復が待っていることでしょう。

いまや宇宙連合にも、このシリウスの争いを止める事はできないのです。

私達のグループの中には、創造主様にお願いしようというものもいましたが、過去にアンドロメダ星系のグルタニユ星人が、その方法を使って失敗し、闇の世界に落とされたこともありましたが、その方法も使えませんでした。



私達にできる事は、様々な星を巡り、シリウス星系の実情を訴えて、どこかの星や星系の人達が、私達を助けるために立ち上がってくれることを期待することだけでした。

しかし皆さんは、同情こそはしてくれるのですが、天の川銀河でも、最大の科学技術と力を持っている上に狂気の創造主によって牛耳られているシリウス星系にたてつこうという星々はありませんでした。

そして恐れていたことに、シリウス星系の指導者が、私達の動きに気づき始めたようです。

仲間達が捉えられ尋問されたりして傷つけられることが増えてきました。

私達は、取るべき道は、2つしかないと思いました。

ひとつは、このシリウス星系から逃げ出して新たな新天地をさがすための旅に出るか、私達を支援する星に全員で集まって、徹底して戦うか、の2つです。

私達は、残された時間がない中で考えました。

そして、成功する確率は少ないのですが、両方の道を試してみる事にしました。

おそらく一つの星に集まって戦っても、狂気の創造主が手を下せば数秒の内に、私達は闇の中に落とされるでしょう。

また、シリウス星系から逃げ出したとしても、私達の宇宙船が見つければ、すぐに打ち落されてしまうでしょう。

両方とも成功する確率はとても低いのですが、やらないわけにはいきません。

私達は、自分達のグループを2つに分けました。

若い人たちを中心とした少数のグループとそれ以外の人達のグループです。

私達は、反乱軍が、シャルロッド星に集まる、というデマを流しました。

シリウス星系の指導者たちは、私達がシャルロッド星に全員集まったところで、全員を捕まえるか、星ごと核兵器を打ち込んで破壊するか、行うでしょう。

あるいは狂気の創造主が、一瞬で闇に落とすかです。

しかし、シリウス星系の指導者が、私達がシャルロッド星に集まるまでは何もしないと考えましたので、その間に目立たないように若い人たちを中心としたグループをシリウス星系以外の場所に脱出させることにしました。

風が吹きまくる夜、私達の子供をのせた宇宙船が静かにシリウス星系を離れました。

幸いなことに、私達を陰で支援してくれたデジャビロッド星人により宇宙船は守られ、無事シリウス星系を出て、さらに天の川銀河を出た星へと、誘導されました。

この星は、後で話を聞いたところ、ブラッド星となり、天の川銀河の発展途上の星々の指導を行ってくれているようです。

そして残った者達は、シャルロッド星に集まりました。

私達には、自分達の未来に対する希望はもはやなく、シリウス星系を逃げ出した子供たちにかすかな望みをかけていました。

そして、私達がシャルロッド星に集まったことを確認すると、狂気の創造主が、襲い掛かってきました。

嵐のごとく吹き荒れる凶暴なエネルギーに私達は身を咲かれる思いで耐えましたが、やはり風がやんだときは、私達は、永遠の闇の中にいました。

其れから何億年と、私達は闇の中に閉じ込められました。

確かに、闇の閉じ込められた時間は永遠のような時間でしたが、その方がまだ、幸せだったかもしれません。シリウス星系はその後、グラッド星人達により、容赦ない核戦争の修羅場と化したのです。多くの者が、各兵器の犠牲となって死んでいきました。いえ、その場で死ねたものの方が、まだましだったかもしれません。度重なる核兵器の爆発で、人々は多大な放射能汚染に会い、死ぬよりも過酷な時間を過ごさなければならなかったのです。

シリウス星系の星々も、多くが放射能汚染にあって人が住めないような星になってしまいましたが、多くの人々は移り住むことも出来ずに苦しんでいきました。このシリウス星系が、立ち直るのに、とても多くの時間と多くの星の人々の支援が必要でした。

私達は、深い闇の中に閉じ込められたまま、その後のシリウス星系とはコンタクトが取れなくなりましたが、先日 TAKESHI さん達によって救いだされました。今では立派に立ち直ったシリウス星系の星々を見て大変うれしく思います。

しかし、あのシリウス大戦争の時の流れを引くディセンションしたシリウス人達もたくさんいることに大変な苦しみを持ちます。彼等は、未だに多くの星々に対して乱暴で支配的な立場を取り、多くの発展途上の星々が犠牲に会っているようです。」

私達も早く力をつけ、皆さんのようなすばらしいスター・ピープルと共に、働きたいと願っています。

### PART3 闇に落された舞姫たちの星

私達がシャルロッド星の後に案内された星は、とても奇妙な星でした。それは、プレアディス星系の近くの星でしたが、音楽の演奏をしている人や、絵を描いている人、小説や詩を書いている人、踊りを行っている人達のような芸術家や表現者たちの映像が、彼らの感情と共に渦巻いている世界です。

彼等は、認められない苦しみやお金のために書きたくない絵を描かされたり、自分の求めるものではない創作を無理やり行わされている様な苦しみを持っていました。そして共通する感情は、抑圧と自己犠牲です。彼等の重たい感情が星を支配し、闇を深くしているのです。

私達は近くまで行き、その星に渦巻いている感情を光に変えていきます。そして光の世界へと戻していきました。その星は、まだプレアディスが、生まれたばかりの若いときに活躍していた星です。この星に一体何が起きたのか、話を聴くことにしました。

\*\*\*\*\*

プレアディス星系に近い場所に、私達のスラニューム星がありましたが、狂気の創造主によって、遠い過去に封印されてしまいました。

今回はデジャビロッドの皆さまや TAKESHI さん達に、助けていただき大変ありがとうございました。

私達の星の名前は、スラニューム星と申しておりました。

皆さんが良くご存じのプレアディス星団も若々しく、ほとんどの星はアセンションをむかえる前で、それほど発展してはおりませんでした。

私達の星は、以前より祭祀の儀礼に精通した星として有名でした。

それはこの当時、天の川銀河やプレアディス星団を治めていた創造主様が、私達の星に良くお立ちよりになり、さらに高次の創造主様に祈りを捧げるといった儀式を執り行っていたからです。

その創造主様は、天の川銀河やプレアディス星団の統治にかかわるマスターや女神をよく及びになり、私達に神聖なる舞を踊るようにお申し付けになりました。

私達も、創造主様より、舞に関わる神聖な力をいただきました。

それは、私達が舞い踊る事により、見ている皆様の力を増したり、未だ開花していない能力を目覚めさせることが出来るようなお力でした。

私達の星には、プレアディス星団や天の川銀河の星々の人達も良くいらっしやっていました。

私達は、その人のエネルギーをみて、その方が良心的な人々か、悪意のある人々かをすぐに見分けることが出来ました。

もちろん、私達の星は、とても清らかなエネルギーを持っていましたので、悪意のある方が入ってくる事は滅多にある事ではございませんでした。

人々は、私達の舞を見て喜び、そして大いに力を増して帰って行かれました。

創造主様もその様な姿を見て、プレアディス星団や天の川銀河が進化していくなれば、私達の舞をどんどん活用すべきであるといってくださいました。

私達は、創造主様をととても敬愛し大切にしておりました。

しかし或る時、大変な事件が起きてしまいました、

いつもの創造主様が来られましたので、私達は喜んでお迎えしたのですが、明らかにいつもの創造主様とは異なるエネルギーの方でした。

だれかが、創造主様に化けてこられた事に間違いがないようです。

その方は、自分の能力を高める為に、私達に特別の舞を行うように強要されたのですが、私達は悪意を持つ人の前で踊る事はできないのでお断りをいたしました。

すると創造主に化けられていた方が、本当の姿を現しました。

その方は、その当時、様々な星で問題を起こしている「狂気の創造主」であることはすぐに理解出来ました。

私達は、困ってしまって、自分達が敬愛する創造主をお呼びしましたが、その祈りも「狂気の創造主」の力でかき消されてしまいました。

私達は、このままでは全員が殺されてしまうと思い、どうしたらよいか悩みました。

その時、私達のリーダーがこのように言われました。

「それでは、私が彼の前で踊りましょう。

しかし、いつもの踊りではなく手順を変えて舞いましょう。

そうすると、狂気の創造主は力を得るのではなく、力を失うはずですから、その間に皆さんは逃げてください。」

私達はちょうどその時来てくれていたプレアディス星団の方の宇宙船に乗せてもらって逃げることにしたのです。

リーダーとリーダーの踊りの演奏をする数名の者だけを残して、他の者達は急いで逃げる準備をしました。

おそらくリーダーが創造主の力を落とすといっても、あれだけ強大な力を持った方ですので、その力はほとんど変わりがないと思ったほうが良いでしょう。

リーダーの踊りが、おかしいと思われた瞬間に、この星は破壊されてしまうでしょう。

私達は、リーダーの踊りが始まる音がするとすぐに、10名ほどの私達の仲間を載せて宇宙船を発進させました。

私達は、リーダーと共にこの星に残り、「狂気の創造主」が、私達の踊りの異変に気付かないように努めなければなりません。

リーダーと私達は、神々にささげる舞を演奏し、リーダーは通常とは異なる順番で踊りました。

「狂気の創造主」はしばらく目を閉じていましたが、演奏をしている者が緊張のあまり、楽器の絃を切っしまいました。

絃がはじかれる音によって、目を覚ました「狂気の創造主」は、自分の体の様子がおかしいことに気づき、自分をだまそうとしたな、と怒って叫びました。

そして無防備なリーダーを弾き飛ばすと、私達の星は一瞬にして真っ暗な闇に閉ざされました。

「狂気の創造主」が私達に封印をかけているようです。

どうやら、私達の星は、闇の中に吸い込まれるように落ちていきました。

私達は、もうすでに自分達の未来について、何の希望も持っていないので、その闇に声も出さず耐えていました。

やがて闇はすこしだけ晴れ、薄暗く寒々しい場所に私達は閉じ込められていました。

それから、私達の時が止まったようです。

私達は、おそらく何億年という間、年もとらずに生き続けました。

しかし、時がたつにつれ不思議な事がおきました。

私達のように舞を踊る者、楽器を演奏する者達の苦しみや悲しみの感情が、どんどん私達の星に襲いかかっ



てきたのです。

芸術家の満たされない思い、苦しめられた思い、報われない思いがどんどん、この星の中にやってきて渦巻いていくのです。

やがて、舞を踊る者や楽器を演奏する者だけでなく、絵を描く者、言葉で語る者、美しいものを創造する者等の全ての表現者たちの思いが、さらに強く私達の星を襲い、渦まいていくのです。

私達もこの渦に巻き込まれ、希望を失い、絶望感に捕らわれていきましたが、私達はすぐに、この闇の渦巻は、自分達の心が呼び寄せているのだと気づきました。

しかし気づきはしたのですが、この助かる見込みのない状況で、その絶望感を手放すことはできませんでした。

私達の心の中に、さらに大きな絶望感と憎しみが生まれていきました。

その感情は、この宇宙中の表現者や芸術家の苦しみや悲しみを誘い、まだ生きている彼等を、私達と同じ絶望感の中に引き込んでいったのです。

そのことによって、創作意欲を失い自殺したり、自分を傷つけて2度と芸術家としての活動が出来なくなった者達もたくさんいます。

神聖なる舞を踊り、皆さんに力を与えていた私達が、今は多くの芸術家たちを絶望させ死に追いやっていったのです。

私達は、出来るならば、自分達の命を絶って、この絶望の星をなくしてしまおうと思い、何度も何度も自分の胸にナイフを突き立てたのです。

あるいは、お互いの体にナイフを刺しあうのですが、その時は大きな痛みを味わい死んでしまったとしても、次の瞬間にはまた生き返っているのです。

私達が、永劫の苦しみから抜け出すことなく、多くの芸術家たちを死に誘い続けました。

長い長い時間が過ぎ去りましたが、ようやく私達にも希望が見えてきました。

デジャビロッドの方から、「もうすぐ助けに行く」というメッセージを受け取ったのです。

そして TAKESHI さん達が来てくださり、私達はようやく永劫の苦しみから解放されました。

私達は、再び自由を得たのです。

私達の星も、再びプレアディス星団の近くに戻していただきました。

本当にありがとうございます。

プレアディス星団に行ってみますと、私達がいた時とは比べ物にならない程進歩していました。

どの星も素晴らしく魅力的な星ですが、特に、セレーノと呼ばれる星では、私達の子孫たちが活躍しているようでした。

あの時、プレアディスの方の宇宙船で逃げ出して、このセレーノ星に連れてこられたようです。

セレーノ星は素晴らしい芸術の星となっていました。

もちろん、あの時逃げ出した者達がいるはずもないのですが、セレーノ星の女性達を見ると、自分達の仲間達を見ているようでとても嬉しくなります。

私達は、あの絶望の中から救いだしていただきましたので、この地球のアセンションにご協力させていただくことで恩返しをさせてください。

私達は、地球と皆さんのために舞い踊る事で、地球と皆さんを勇気づけ、必ず素晴らしいアセンションが成し遂げるようにさせていただきたいと思えます。

#### PART4 アルクツールス星系の希望の星

私達は更に闇に閉ざされた星々の救出に回ります。

今私達が救出しなければ、第一次アセンションが終わり、私達が光の世界にはいると完全に闇の世界と分かれたるので、彼等を助け出しに行く機会はなくなります。

この地球の第一次アセンション前に、彼らを救い出して、地球のアセンションを手伝ってもらう事は、創造主の中でも決められていたことのようにです。

次に助け出したのは、アルクツールス星系の星です。

彼等からも、メッセージを聞くとしましょう。

\*\*\*\*\*

私は、今回皆さんから救いだしていただいたアルクツールス星系のウナアジャッド星人です

私達も狂気の創造主によって星ごと闇に落とされた者達です。

私達が、闇の世界に落とされた理由は、狂気の創造主が、私達の魔法力を邪魔に思ったからです。

私達は、古代のアルクツールスの星系で、人々の幸福のために宇宙の特別な力を研究してきました。

皆さんが魔法と呼ぶような力の事です。

その当時、狂気の創造主が、私達のアルクツールス星系に関わってきたことがありました。

その頃、アルクツールス星系では、宇宙の叡智や神秘的な力を利用して、人類を進化させるための研究が盛んにおこなわれていました。

私達を中心として、多くの星が魔法や叡智を学び、天の川銀河の柱となるように努力していたのです。

私達の事を応援してくれる創造主様もいましたので、私達の進化は思った以上に進みました。

そこに、狂気の創造主が現れたのです。

彼は、私達を指導する創造主と対立していました。

その創造主が行う事は、なんでも邪魔してやろうと考えていたのです。

狂気の創造主は、どんどん進化していくアルクツールス星系の星々を嫌って、中心的な星のいくつかを闇の中に落としてしまったのです。

アルクツールスの中心的な星は、非常に倫理観が高く狂気の創造主の命令に従う事はありませんでしたが、そのほかの星は、恐れあまり狂気の創造主に従う事を認めてしまいました。

狂気の創造主に従った星の者達は、闇に堕ちていく代わりに、強力な魔法力と人の心を操る力を得たのです。

それ以来アルクツールズ星系では、非倫理的な魔法が横行してしまいました。  
魔法や宇宙の叡智が、他の星々を侵略したり、人々を傷つけるために利用されてしまったのです。

それは今となつては、アルクツールズの闇の時代とも言えるでしょう。  
それ以来、シリウス星系とアルクツールズ星系の2本柱を失った天の川銀河は進化への道を絶たれ迷走する事となったのです。

私達を指導してくれた創造主は、狂気の創造主の目の届かない所で、闇に堕ちていったアルクツールズ星系の星々をどんどんディセンションさせていきました。

そして、光の世界へと向かっていく星々とは関わる事がないようにして下さったのです。  
そうしなければ、天の川銀河の健全な星々も、彼らの餌食になってしまう可能性が強かったからです。

ディセンションしたアルクツールズ星系の星々はことごとく闇の創造主とひとつにつながっていきました。  
そして、闇のアシュタールや紫ピラミッドと呼ばれる様なディセンションした星々の連合体を作り、天の川銀河の闇のリーダーとして他の星々を支配したのです。

彼等の魔法力や狡猾な知恵はその時から、ずっと天の川銀河の星々を苦しめてきました。  
しかし、アシュタールや宇宙連合が出来るにつれ、光の世界では、彼らの動きも抑えられてきたようですが、そうでない世界では、彼らの狂気じみた破壊活動は続いているようです。

今回皆さんが地球のアセンションに伴って、地球を支配するためにやってきたアルクツールズ星系の者達をたくさん光に返して下さったようで、私達も安心しました。

もとはと言えば、同じアルクツールズ星系の仲間ですので、彼等が愛に基づかない暴挙を行う事に私達も苦しんでおりました。

彼等が、少しでも早く学びを得て、私達、光のアルクツールズと共に歩むことが出来ればこれに勝る喜びはありません。

私達は、皆さんがアセンションする前に、私達を助け出していただいて本当に良かったと思います。  
私達は、闇の中に落とされても、私達の魔法力を高め、以前の世界の事を知ることも出来ましたし、何度かアルクツールズ星系の重要な局面には、残された者達にメッセージを送ることも出来ました。

しかしこれからは、私達も他のスター・ピープルと共に、皆さんのアセンションを成功させ、天の川銀河全体のアセンションも成功させていきたいと考えております。

## PART5 古代ウナァジャッド星人達のメッセージ

今回、私達が地球のアセンションで行う事は、ディセンションした星々の者達から、この地球を守る事です。  
彼等は、通常のスター・ピープル達では、対応できない能力とパワーを持っていますし、精神のコントロールにも大変優れています。

地球の人達は自分達をはるかに上まわる彼等の力には到底太刀打ちができないと思います。彼等は、皆さんを様々なヒーリングや信仰、お金儲けの方法でおびき寄せ、皆さんと一体化して、地球での活動基盤とします。彼らが一体化した人々は、特別な力を持ちますので、他人に対して大きな影響力と支配力を持ちます。そしてヒーリングや宗教、ネットワーク販売や株式の売買、IT の開発などをおして、お金と名声、そして人々の崇拜を得ます。

皆さんは、その力にどんどん酔いしれ、自分の活動を広げて仲間づくりをします。アルクツール星系の者達は、その様にして作られたグループや教団などを巧みに支配し、現実世界での力を拡大してきます。現実世界でも、スピリチュアルの世界でも、彼らはそのようにして、自分達のテリトリーを広げ、世界を支配し奪い去っていきます。

スター・ピープル達は、現実世界で人と一体となった地球外生命達には何の手出しもできませんので、彼等の行為を止めることはおろか、彼等を発見する事さえもできずに侵略されていくのです。創造主達も同じで、地球人となった彼等の行為を止めることはできません。

幸いにも、この地球には、TAKESHI さんとアシュタールを初めとするスター・ピープルの皆さんが、しっかりと連携を取っていらっしゃるのので、地球人と一体化した地球外生命体も見つけることが出来ますし、彼等に対して有効な処置をとることができました。

私達は、皆さんのお手伝いをしながら、特に人と一体化していない地球外生命体達の処理を行なっていきたいと思っています。人と一体となっていなければ、私達にも彼等の活動が見えますし、彼等が何を考え、何をしようとしているのか分かりますので、皆さんに先駆けて、私達の方で彼等に対抗したいと思います。

もちろん私達だけで処理することが出来ないこともありますので、その時は、アシュタールの皆様やスター・ピープルの皆さんと共に、処理を行ないたいと思います。

私達から地球の人々へのメッセージです

どうか、自分の内なる心と深くつながってください、皆さんにとって有害な地球外生命体達は、皆さんの心の隙間に侵入してきます。それは、皆さんの寂しさや不満足感、愛されていないという愛の欠乏感や自分がしっかりと認められていないという不満足感、お金や物品、あるいは恋人がほしいと思う欲望、他の人達を支配したいと思う気持ちが、彼等呼び寄せる隙間となります。

あなたが、自分の内側を向かずに、外にあるものばかりに気を取られ、望んでいる時に彼等はやってきます。彼等は、まずあなたの欲望を満たすことから始めます。ヒーリングや宗教、株式などをやって、普通よりもお金がたくさん入ってきたり、人から先生と崇められたり、まずあなたの気持ちを満足させる所から、あなたに取りいってきます。

あるいは、特殊な能力や技術を持った人、誰よりも多くの収入や名誉を得た人など、あなたを心酔させるものを持っている人達に依存してしまった時に、あなたの理性は揺らぎ、あなたの心の主導権を奪われてしまいます。

もしあなたが、現在、誰かにコントロールされているような気がしたり、何かに夢中になっているとしたら、あなたの心から理性を奪い、あなたを中毒にさせている物がないか調べてください。多くの人は、この段階では、「いや、そうじゃない。」と自分がしていることを正当化するでしょうが、やがて、今迄の自分とは違う世界に入ってきている事に気づくでしょう。

ただ難しいことは、たとえその世界が、本当に素晴らしい世界のように見えていても、あなたの意識が、彼等にコントロールされていることもあるのです。

あなたの意識には、自分が行っている事が、有益でとても素晴らしい事のように思える事がありますが、気づいてみるとそうではなかったと思えることが良くあります。

多くの新興宗教にも同じことが言えます。

その世界の中にいるとその世界こそが真実であると思えますが、その宗教からはなれると、まるで映画館を出たときのように、今迄の世界が作り物であったことが分かるのです。

今迄は、皆さんは、様々な映画を映しだしている映画館の中にあるような状況です。

自分達とあなたに関わる地球外生命体達によって作られた映画を見ていました。

しかしアセンションは、その映画を終わらせ、皆さんを映画館から外に出すことです。

あなたが、現実中存在している世界の本当の姿を見るときがやってきたのです。

今迄の幻想をはねのけ、新しい世界の幕が上がります。

今度はだまされることなく、あなたにとって真実の世界を見てください。

私達は、そのために、幻想のとばりを片付ける準備を行っています。

## PART6 ギルタニユ星の叡智のケンタウルス

しばらく時間を空けてから助けに行ったのは、古代アンドロメダ星系にあったギルタニユ星です。

この星は、古代アンドロメダの科学と哲学を確立した叡智あるスター・ピープル達によって運営されていた星です。

ギルタニユ星の中心は、非常に聡明で礼節をわきまえたケンタウルスの種族でした。

彼等は、宇宙工学や科学技術に長けていましたが、人々の精神性を重んじる種族でした。

古代アンドロメダの科学と哲学は、ギルタニユ星のケンタウルスと彼らに学んだ人々から始まったようです。

ケンタウルスの種族は、ギルタニユ星から外に出ることはなかったようですが、彼等に学んだ人たちは、アンドロメダ座のいくつもの星に、その技術と哲学を教えるために派遣されていきました。



グルタニュ星は「狂気の創造主」によって 5000 万年前に闇に落とされましたが、他の星に派遣されていた人達により、彼らの科学技術と哲学は、アンドロメダ座全域に伝えられることになりました。もちろん、グルタニュ星ほどの科学技術と哲学の水準に達するには長い時間が必要でしたが、グルタニュ星が作り上げた叡智により、アンドロメダ座は、今でも天の川銀河の中心的な種族として活躍しています。

この章では、彼らの話から、グルタニュ星が闇の世界に落とされたいきさつやその中で学びとったことなどを、彼らの言葉のままにご紹介したいと思います。

\*\*\*\*\*

自分達の星の中で突然異常気象が起きました。

自分達はいつも科学的な見地から気象の研究をしていたので、気象の乱れが或る時は、すぐに分かるのですが、この時は予兆がなく突然異常気象がおこったのです。

これは科学的ではないと判断し、原因を探しました。

自分達の星は「神の怒り」というような事は考えず、常に科学的な研究に基づいて判断していました。しかし、この時の異常はどの理由にもあてはまりませんでした。

私の星の人々の意識も良好で、近隣の星の人達も安定した生活を送っていました。

私達の星が処罰を受けなければならないようなことは何もありませんでした。

私達の星を守護するクリスタルと共に瞑想して原因をさがしました。

すると大きな創造主クラスの力が、私達の星に加えられていたことを感じました。

私達は更に瞑想し、この創造主に問いかけ、何故私達の星に天変地異を起こしているのかとききました。何回か問いかけたところ返事が来ました。

これは、私達を成長させるために起こしていると創造主は答えました。

私達は、このような天変地異がなくても成長することが出来るので、このような事は起こさないでくださいとお願いしました。

しかし創造主は、聞いて下さらなかった。

その為に、この創造主に對抗できる創造主はいないかと思い、祈りを続けていました。

この創造主を説得して、私達の星の天変地異をとめてくれる創造主はいないかと祈ったのです。

その祈りが、この創造主に聞こえ、この創造主は、私達に対して大きな怒りをもちました。

自分の創造にケチをつけるのかと文句を言ってきましたが、私達は、それはおかしいと思いました。

自分達は他の星を侵略することも星に共に住む人を抑圧することもしませんでした。

私達の星は、他の生命を尊敬し平和な星の生活を維持していたのです。

その上で私達は科学や哲学を学び成長していきました。

自分達に落ち度はなく、創造主の怒りを買うようなことはしていないと思いました。

その為に私達は創造主に引き続き訴えかけていました。

しかし、星の異変は、自分達の星だけでなく周りの星にも異変がひろまってきました。

平和な星が内戦を起こしたり他の星を侵略しようという動きがでてきたのです。

私達は、この創造主以外の創造主に向かって、このような状態を改善してもらうよう祈り続けました。するとこの創造主がさらに怒って言葉を伝えてきました。

「私の創造にケチをつけるようであれば、おまえたちを封印する。」といわれ、その瞬間に、私達の星を闇の中に落としてしまったのです。

闇の中に封印されていた長い年月は、今迄に体験したことがない苦難の連続でした。

私達は平和な星だったのですが、人々が創造主に対して強い憎しみや怒りを持つようになり、その怒りは更に広がり、やがて自分達の星の人達に対して責任をなすりつけるようになりました。

私達ケンタウルスは深い叡智を持っていたので、ケンタウルス以外の種族の人達に対しても闇に飲み込まれないように守ってきました。

私達の星が闇の中に落とされ、闇の世界で暮らすようになると、今迄になかった感情が芽生え、お互いを傷つけるようになりました。

実際に住民の中には、心の中に闇が芽生えて、たとえ私達の星が、闇の世界を出たとしても、光の世界には戻れそうにない人達も出てきました。

約半数の人たちがそのような状態になって死んでいきました。

最後に残ったケンタウルスとわずかな住民だけで、あなた方が、私達を助け出してくれるまでの5000万年近くを闇の中で生きてきたのです。

元々私達の星を守護していた女神達も常に守護してくれていたために、私達を深い闇から守ってくれました。私達の星の科学技術は停滞しましたが、精神力は鍛えられました。

私達は、スピリットして他の星に転生することも認められていなかったのも、半物質的な体で、子孫を生んで、この星の中だけで転生を繰り返しました。

私達の種族をそのまましておく、「狂気の創造主」に対抗する創造主が来て、自分の行っていることがばれてしまうと思い、「狂気の創造主」は私達を封印したようです。

「狂気の創造主」はデジャビロット星人を恐れていたのも、自分達がそうならないように早めに処理をしたのです。

私達の星はアンドロメダ座の歴史上残っている伝説の星ですが、忽然と消えたことでも知られています。私達の星が残っていれば、天の川銀河の進化とアセンションは、もっと早く行われていたでしょう。

私達は、元の世界に戻り、創造主から強い光を受け、今までの闇を癒してもらえたので、今まで以上にパワフルな状態でTAKESHIさんと統合されることでしょう。

現在の最高次元の創造主はグルタニユ星が、闇の世界に落とされることで達成出来なかったアセンションを一気に行い、私達の星を高い次元に持って行ってくれました。

現在はエリシタール星の2つ下くらいの次元にいます。

私達は地球のアセンションに直接協力できませんが、TAKESHIさんを通して協力できます。

ケンタウルスの星は、他の星に関わる事はあまりできませんし、グルタニユ星と地球の文化は、大きく異なる

るので、地球の進化にとっては、あまり役にたちません。

グルタニュ星の使命は、高い叡智と科学とスピリチュアルの一体化を目指すことです。

グルタニュ星はアンドロメダ座の伝説的な星です。

グルタニュ星が闇に落とされたとき、この星から他の星へ派遣されていた人々は、闇に落とされずに、他の星で生き続けることが出来ました。

そして、他の星を進歩させていき、科学とスピリチュアルをひとつにして発展させていったのです。

その結果が、現代のアンドロメダ座であり、アンドロメダ座の星々は、グルタニュ星の子孫であるともいえます。

## PART7 グルタニュ星人からのメッセージ

私達は皆さんを直接サポートしたいのですが、それが出来ませんので、TAKESHI さんを通してメッセージを送りたいと思います。

私達が、闇の世界から目覚めて、地球の様子を見ると、地球はまだまだ闇が深く、目覚めが遅いように感じました。

確かに地球は闇から生まれた星ではありますが、光をもったスター・ピープル達のサポートもありましたので、そこから十分に学び取ることも出来たはずです。

私達の星も闇に落とされて、闇の世界で生きることを強いられましたが、かろうじて半分の人々は、心に闇を生みだすことなく自分自身を守ることが出来ました。

地球と私達の星では、文化も考え方も大きく違いますが、私達は、長い間、闇の中で生きる事に対して打ち勝つことが出来たのです。

地球の方達も必ずできるはずですよ。

これからさらに、闇の世界で多くの事を学ばなくてはいけない方もいますが、これから光の世界に向かう人々にはお伝えすることがあります。

どうか、今迄の闇の世界で身に着けてしまった感覚を捨て去り、自分の中の光を十分輝かせ、光の世界で生きる感覚を感じてください。

そう伝えたとしても、皆さんは理解できないかもしれませんが、皆さんはもうすでに闇の中にはいないのです。

もうすでに光の世界に入り、スピリチュアルなレベルでは光の存在になっているのです。

その事を肉体レベルで実感できないのは、ただ闇の世界に長くいた体の癖なのです。

もうすでに、自分の中で輝きだした光を感じ、光の存在であればどのように行動すればよいかを感じてください。

光の存在というのは、まず自分自身を否定することはしません。

自分自身を認め、自分の可能性を心から信じる事ができ、そのうえで自分がどう行動したらよいかを考えることができるようになるのです。

善悪の分別をしっかりとつけ、自分自身の問題からも決して逃げません。

光の存在というのは、良い意味で恐れを知りません。

自分の可能性と自分の強さを知っていますので、自分でいろんなことを切り開けると心から思うことができるのです。

これは決して自分勝手な欲望や自分の願望を実現するといった事ではなく、自分自身を高める為の問題に堂々と立ち向かっていけという事なのです。

光の世界といっても、全てが思い道理になるような楽な世界ではありません。

今迄の地球のように、どんなに頑張っても乗り越えることが出来ないという問題が存在しなくなるだけです。

光の世界でも努力は必要です。

努力をして自分自身を高めることを忘れてはいけません。

皆さんは光の世界を少し勘違いしているように思えます。

光の世界にいけば、今まで虐げられてきた生活が取り払われ、自分が自由になれると考えている人がたくさんいるように思えます。

オートマタツクに何をしなくても自由になれるというわけではりません。

やはり自分自身が自由になるためには、自分で声を上げ、必要なことを実行しなければならないのです。

自分自身が立ち上がらなければ、自分を守ることはできません。

自分がされたら嫌な事は、はっきりと嫌だといわなければならないのです。

まずそこから始めてみてください。

最後に、簡単ですが、皆さんが光の世界に行く法則を教えましょう。

まず、人の立場になって考える事を日頃から行うことです。

人の考え方、人の苦しみ、悲しみを思い、自分だったらどうするかという事を考えて行動してください。

そして地球の人にとって、最大の壁となるエゴと立ち向かう事。

たとえば、何か自分の欠点を誰かに指摘されたとしたら、皆さんが初めに起こす行動は、怒りによってその指摘を否定することです。

注意してくれた人の言葉を様々な理由で否定し、反対にその人を批判しようとしています。

まずこのことを自分で律しなければなりません。

たいていの方は、相手の欠点を指摘するときに、同じように悩み考え、迷った末に、相手の方が良くなって貰おうと考えてその意見を伝えます。

まずそのことにたいして感謝の気持ちを抱いてください。

こうしてしっかり伝えてくれる方は貴重な方ですので、しっかり聞き入れるようにしてください。

これはスピリチュアルの事ではありませんが、光の世界に行く人たちは、日頃の日常の中でベストな状態にならなければいけないのです。

それは、同じ日常を生きる人から尊敬され愛されなければならないのです。

日常で共に生きている人々から、賞賛されるようにならなくては、光の世界に行く意味がありません。

その様な現実的な世界での行動をまず大切にしてください。



## 第2章 奪われそうになった地球の未来

### PART1 光彩の創造主の兄弟となる創造主の反乱

またいつものように、私達が寝ている時に、私達に地球人の感情が流れ込んできました。私達に対して、憎しみや怒りのエネルギーをぶつけて来る存在がいます。だいたい、このような時は、人の意識の中に入っている存在が、地球のアセンションを妨げるためにこのような事をしてくることが多いのですが、今回はそのエネルギーがとても強く感じられます。

いつものようにピカフラッシュをお願いして、このエネルギーがどこから送られているのかを調べてみると、地球人のネガティブな潜在意識のかたまりが見えてきました。これは、いつもの事なので、この地球人の意識を誰が操っているのかを調べてもらおうと、とても大きなパワーを持つ創造主が、地球人の意識を操っているようです。

私は、「光彩の創造主」と「神聖なる光の創造主」に来てもらい、この創造主の事を尋ねました。「神聖なる光の創造主」が少し慌てたような顔をして答えます。「確かにこの「破壊の創造主」は、かつて光の世界の創造主でした。「光彩の創造主」と同じ時期にうみだされた創造主で、「光彩の創造主」の兄弟の様な立場になります。しかし彼の創造は非常に荒々しく常軌を逸したものでしたので、今回の地球のアセンションには関わらないようにと言っていました。また彼が、地球とこの宇宙に関わる事がないように、他の宇宙に送っていたのですが、この時期に戻ってくるとは考えてもおりませんでした。」

「光彩の創造主」は、私達に申し訳なさそうな顔をしています。「TAKESHIさん、美樹さん、本当にすみませんでした。「破壊の創造主」は、私の兄弟の様な創造主で、いつも私と張り合っていました。彼が出てきたという事は、私達にとっても越えなければならないものが現れてきたという事です。ここは、私が彼と話をし、決着をつけたいと思っています。」

私達は、この創造主に関しては「光彩の創造主」をお願いしてそのまま戻る事にしました。ただ、このままうまくまとまるかな、という気持ちだけが残ります。私達は、この日は予定されていたクラシック・コンサートがあったので、お腹の中の子供も一緒にお出かけです。

クラシック・コンサートが終わって帰るころ、どうも変なエネルギーがまとわりついてきますので、私達は見晴らしの良い喫茶店で霧島の山々を見ながら、エネルギーをしらべてみました。特に創造主やスター・ピープル達の目の届きにくい物理世界の近くにある場所や次元を、ファラオ達や日巫女族を総動員して調べます。もちろんピカフラッシュも、地球の様々な次元を、エネルギーを使って調べています。

すると、地球の物理次元に近いところで地球外生命体達が、人々の意識と連携して人々に怒りや憎しみの感情を植え付けたり、絶望感や無力感を味あわせています。

このようにして、人々を感情レベルで操作して、学びの世界に留めようとするのです。

美樹さんと地球人の潜在意識は深くつながっているのです、地球外生命体やよこしまな気持ちを持つ創造主が、潜在意識を操作しようとする、彼女の体に異変が起こるのでわかります。

私達が、その場所に入っていくと地球外生命体達も驚いて動きを止めますが、私達と一緒に来たスター・ピープルや宇宙警備隊によってすぐにつかまってしまいました。

私達は更に、地球外生命体達を操っている存在が、人間の潜在意識の奥に隠れていることが分かりましたので、その中に入っていきます。

すると、そこで地球外生命体達を操っていたのは、今朝私達の前に現れた「光彩の創造主」の兄弟でした。彼は「光彩の創造主」によって処理をされたはずですが、何故ここにいるのでしょうか。

私は「光彩の創造主」を呼び出して、兄弟の創造主の事を尋ねました。

「TAKESHI さん、彼と話をしたのですが、彼は私達の話を理解することが出来ませんでしたので光にかえしました。」

「光彩の創造主」は、私にこのように告げました。

私は、「それでは、これは誰ですか。」と「光彩の創造主」に告げます。

「光彩の創造主」の様な高次の創造主達は、直接物理世界に近い場所は見ることが出来ませんので、私や美樹さんを通して、物理世界に近い場所を見ることになります。

私の意識をとおして物理世界に近い場所をみた「光彩の創造主」が、「えっ！」と驚きの声を上げます。

「この「破壊の創造主」は、私達が光に帰したはずですが、何故ここにいるのでしょうか。」

「光彩の創造主」は一瞬パニックになったようでした。

私は、ロッド星人を呼んで意見を求めます。

ロッド星人は、この創造主のエネルギーを調べています。

「私達が見た限りでは、TAKESHI さん達が朝に会われて、「光彩の創造主」が光に返した「破壊の創造主」は、目の前にいる創造主の一部のようです。

目の前にいる創造主と朝に会われた創造主は、同じエネルギーを持っていますが、明らかにこちらの創造主のエネルギーの方が大きいので、こちらが本物だと思われまます。」

「すると私達は、この「破壊の創造主」にだまされていたという事ですか。

この創造主は光に帰ったと、私達に思わせておいて油断している間に、その本体が自分の計画を遂行していたという事ですか。」

「残念ながらその様なことになると思います。」

「光彩の創造主」は自分がだまされたことに怒っています。

私は、おそらくその様なことだろうと思っていましたので、この創造主と話をしてみることにしました。

「「破壊の創造主」よ、このような手の込んだ方法まで取って地球のアセンションに関わる理由はなんですか、教えてください。」

人間の潜在意識の中に隠れた創造主は、先ほどのトリックで、私達に見つかることなく自分の計画が進められると思っていたようですが、私達に見つかってしまい悔しい思いをしているようです。

「私は本来光の創造主を指導する立場の創造主ですが、多くの創造主は私の存在を無視していました。私はいつも「光彩の創造主」と比べられ、彼には賞賛が与えられましたが、私には賞賛は与えられることがありませんでした。

それどころか、私は、この地球のアセンションにとって邪魔な存在のようです。

私は、遠くの世界に飛ばされて、地球のアセンションには、関わらないようにと言われました。

しかし、私はその意見には、納得できませんので、「光彩の創造主」に恥をかかせてやろうと思い、この地球のアセンションを邪魔することにしました。」

私は、光の創造主の世界では、よくこのような事が起こりますが、まさか「光彩の創造主」のラインでこのようなことがおきるとは思ってもいませんでした。

「しかし「破壊の創造主」よ、あなたが地球のアセンションに関わらないように言われたことには理由があるはずですよ。

それはなぜだかわかりますか。」

創造主はふてくされたように言います。

「いえ、創造主は自らの独自性をもって宇宙の創造を行うのです。

自分が作りたい宇宙を創ることが私達の使命です。」

「創造主よ、自分の独自性のある宇宙を作りたいのはわかりますが、宇宙の創造は責任を伴うものです。あなたが宇宙を創造したとします。

その宇宙の中に人や生命が生まれてきますが、その一つ一つの物を尊重し大切にしていますか。」

「あなたは、私に何を言いたいのですか、創造されたものはすべて創造主の意思に従わなければなりませんので、それらを尊重することも大切にすることも必要ありません。

気に入らなければ、壊してまた作り直せばよいだけです。」

やはり、この創造主も自分勝手なことしか考えていません。

「創造主よ、あなた自身がそのような身勝手にわがままな考え方をしているから、他の創造主があなたについてこないのではないですか。

あなたは、創造された宇宙を大切にしていないし、そこに生れてくる生命も尊重しようとしなくて、宇宙は自分にとって支配される為だけにあると考えているからこそ、あなたに宇宙の創造は任せられないと、上位の創造主が判断されたのではないですか。」

「いえ、上位の創造主は、「光彩の創造主」をえこひいきしているだけです。

彼こそ無能で力のない創造主です。

私が、地球と宇宙の支配をしたほうが良いという事を見せつけるために、私はやってきました。」

「光彩の創造主」はその言葉を聴いてムッとしていますが、確かに今朝、彼は見事に騙されましたので反論はできません。

私は、「破壊の創造主」を見据えて言います。

「私達が行っている地球のアセンションとは、一人一人の生命を大切に扱うために行っていることです。生命をまるで物のように扱い、自分勝手に支配したいというあなたの考えとは正反対です。あなたが地球に関わってきたことも、創造主としてあるまじきことですが、地球の人々のネガティブな感情を利用してアセンションを邪魔することは、光の創造主の意向に反することです。このまま、手を引いて自分の世界に帰ってください。」

創造主は怒り続けて、私達に怒りのエネルギーをぶつけてきました。

私は「神聖なる光の創造主」を呼び出します。

「「神聖なる光の創造主」よ、どうしてもこの創造主は、考えを変える様子はないようです。出来ましたら、創造主としての資格と能力を全て剥奪して、地球に人として生まれ変わらせ、学びを行わせたいかがでしょうか。」

「そうですね、私も2人の会話を聞いておりましたが、この創造主は、私達の忠告を無視して地球にやってきました。

そして、地球のアセンションを妨害しようとしたので、創造主としての資格を剥奪しようと思います。創造主よ、地球に降りて人としていきってください。」

「神聖なる光の創造主」はそのように答え、この創造主から全ての能力と知識をはぎ取っています。

創造主はしばらく子供のように抵抗していたのですが、やがて光に吸い込まれるように消えていきました。彼の地球での学びが始まったようです。

「神聖なる光の創造主」はその様子を見て一言こぼしました。

「彼も創造主として成長できませんでした。

でも、どうして彼が、あの世界から出てこれたのかしら。」

私は「神聖なる光の創造主」の一言が気になっていますが、この言葉は、後で大変な出来事を知るきっかけとなりました。

## PART2 変容した愛の女神

この創造主が、創造主としての力を失い、地上に降りたことで、彼の計画が明るみに出てきました。それはまさに、地球のアセンションにたいして大変な危機をもたらすものでした。

私達が自宅に戻りかけた頃、またしても美樹さんを強烈な頭痛が襲います。

これは地球外生命体や私達に敵意を持つ創造主達が、自分達の計画を知られないようにするために、美樹さんの探査能力やビジョンを見る能力をマヒさせるために行われることです。

確かに、この手の妨害電波は強力で美樹さんも頭を抱えて痛がっています。

しかし、私達はこのような電波を送ってきた存在達をすぐに逆探知して、どのような存在が何のために、私達に干渉してきたかをすぐに調べることが出来ます。

特にピカフラッシュを仲間にしてからは、その探査能力は格段と早くなりました。

私達に妨害電波を送った存在も、その1分後には逆探知されて、私達に見つかり逮捕されるという事が起きているのです。

今回もそうでした。

私達に、自分達の計画がばれないように妨害電波を送っていた女神は、すぐに発見されました。

その女神をしらべてみると、異なる宇宙の「愛の女神」であることが分かりました。

しかし、彼女が行っている事は、地球人が持つ愛のエネルギーを奪い取り、代わりに憎しみのエネルギーを与えることでした。

そうすることで、地球人がお互い憎しみ合い、争ったり傷つけあったりすることを助長していたのです。

これは通常では考えられないことです。

おそらく誰かに操られているか命じられているために起こったことでしょう。

すぐに、この女神にコントロールコードが入れられていないかを調べてもらおうと、やはりありました。

私は、スター・ピープルにそのコードを外してもらい、誰が作ったコードか調べてもらいました。

やはり、紛れもなく先ほど地上に降りた「破壊の創造主」がつけたコードのようです。

「神聖なる光の創造主」を呼び出して、この「愛の女神」がどこからきたのか調べてもらいました。

「TAKESHIさん、確かにこの女神は、皆さんの光の創造主の系列に属している創造主ではありません。

おそらく、「破壊の創造主」が送り込まれた世界の女神のようです。

私は、大切なことを調べに行ってきます。」

とって「神聖なる光の創造主」は消えていきました。

コントロールコードを外された「愛の女神」は、正常な意識を取り戻したようです。

「ここは、一体どこでしょうか、

私はここで、何をしていますのですか。」

「愛の女神」は、自分が見知らぬ場所において、知らないスター・ピープル達に取り囲まれているのを大変驚いています。

アシュタールのエレナさんが、彼女に寄り添うようにして説明しています。

「女神よ、ここは地球と呼ばれ天の川銀河の星の一つです。

「神聖なる光の創造主」が言われることには、あなた方は、私達の宇宙とは全く異なる宇宙の方のようです。

あなたは、ある創造主に騙されて意識をコントロールされ、この地球に連れてこられました。

そして地球に生きる人々の愛のエネルギーを奪い、憎しみの感情を抱かせて、地球の人々に争いを起こさせていたのです。」

女神はエレナさんの言葉に驚いています。

自分は愛の女神だから、その様なことをするはずはないと言い張っていますが、地球で起こっていたことを振り返って見せてあげたところ、自分が本来行うべきでないことを行っている姿を見て愕然としています。

「私は一体なぜこのような事をしたのでしょうか、

私は皆さんに取り返しが見つからないことをしてしまいました。

本当にごめんなさい。」

女神は両手で自分の顔を覆い泣き出してしまいました。



エレナさんはそのような女神を慰めるように言いました。

「これはあなたのせいではないのです。

あなたは、まちがえた考え方をしていた創造主に利用されていただけです。

よかったら、あなたが覚えていることを私達に教えてくれませんか。」

「愛の女神」は、目に涙を浮かべながら話し始めました。

「私達の宇宙は、他の宇宙にくらべるとまだ生まれてからそれほど長い時間が経っていない宇宙です。

創造主達も、経験が浅く試行錯誤を繰り返していました。

しかし、私達はいつも楽しく喜びをもって宇宙を創造していたのです。」

彼女は、まだはっきりしない意識で記憶の糸を手繰り寄せています。

「そして、しばらく前に一人の偉大な創造主様が、突然私達の世界にやってこられました。

創造主様は、自分達の宇宙だけでなく他の宇宙や様々な世界の事を良く知っている創造主さまで、私達が持っていない力をたくさんお持ちでした。

創造主様は、私達は、まだ未熟な創造主だから、私達を一人前の創造主にするために来たといわれました。

私達は、偉大な創造主様に素晴らしい力をいただき多くの事を学ばせて頂きました。」

「愛の女神」はしばらく言葉を止めます。

ところどころ記憶が失われているようです。

「そして、私達にたしか、このように言われたと思います。

これから大きな宇宙を支配する為に、私達をどこかに連れて行かなければならないと、

私達の仲間のひとりが、自分達の宇宙から外に出るのは望まないと、言ったような気がします。

それから、、、それから、、、私は、そのあとの記憶がなく、今ここにいるのです。」

私は、とても大きな不安に襲われます。

ロッド星人もエレナさんも私と同じことを考えたようです。

「彼女の仲間の創造主を急いで探しましょう。」

私は、光の創造主、創造主警備隊、地球警備隊、宇宙警備隊を呼び出します。

そして、「愛の女神」につけられていたネガティブコードの波長を使って、彼女が来た世界の創造主達を探し出すことにしました。

ネガティブコードは同じ波長を持っていますから、ピカフラッシュにその波長を覚えてもらい、その波長をもつネガティブコードを全て探し出します。

もちろん、そのコードは、「愛の女神」が属する宇宙の創造主達につけられていると思われるので、ピカフラッシュが創造主達を発見したら、光の創造主と各警備隊で捕まえてもらいます。

エレナさんもアシュタールのメンバーに応援をもらい、地球を周回している宇宙船や別の次元に隠されている宇宙船や基地の探索に入ったようです。

ピカフラッシュが、たくさんに分かれ一斉に走り始めました。

警備隊もそのあとを急いで追います。

警備隊にはあらかじめピカフラッシュの波長を覚えさせていますので、見失ってもすぐにわかります。

「愛の女神」につけられているコントロールコードに組み込まれているプログラムの分析を、ロッド星人がはじめています。

それによって、「破壊の創造主」が最終的に何をしたかったのかを調べることが出来ます。

しばらくするとどこかに出かけていた「神聖なる光の創造主」が心配そうな顔をして戻ってきました。

「TAKESHI さん、大変なことになっていました。

あの創造主を閉じ込めておいた宇宙を見にいったら、多くの創造主が姿を消していました。

一体どうしたというのでしょうか、

あの創造主は一体何を企んでいたのでしょうか。」

コントロールコードを調べていたロッド星人がコードを片手に答えます。

「地球がアセンションしたときに、その世界を奪い取る事です。」

### PART3 アセンション後の地球が奪われる危機

その場にいた全ての創造主とスター・ピープル達が凍りつきました。

「あのコントロールコードを調べた結果、「破壊の創造主」は、自分が隔離された宇宙の創造主の全てをコントロールしていたようです。

そして、私達の戦力やスター・ピープル達の数、創造主の数などを徹底的に調べていました。

そして、元いた宇宙の創造主達にコントロールコードをつけて支配を行い、彼等を全て引き連れてこの地球に入ってきたのです。

創造主達はすべて、光の創造主に対する対抗策とパワーを与えてありましたので、とても強力な創造主集団となっていました。

彼等の目的は、地球がアセンションした瞬間を狙って、光の地球を自分達の世界に繋ぐことです。

そうすれば、アセンションを通じて簡単に光の地球を手に入れることが出来ます。

その為に、光の創造主と同じ配置に、別の宇宙の創造主達を配置したようです。

しかし、不思議なことは、この計画を実行する為には、「神聖なる光の創造主」を上回る力を持った創造主がいなくては、計画は実行できないはずですが、、、」とロッド星人は口をつぐんでしまいました。

「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も、自分達の知らない所でその様な計画が進められていたことに不安な気持ちになっています。

その時、警備隊達が別の世界の創造主達を捕えて、一人、また一人と戻ってきました。

「神聖なる光の創造主」が、その様子を見て驚いています。

「創造主よ、このような事もあろうかとネガティブコードの波長を調べ、同じ波長をもつコードを付けられた創造主達を捜しています。

もう少しすると、全員集まるのではないかと思います。」

と私が答えると、「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も安堵の溜息をついています。

連れて来られた創造主達は、背中や後頭部につけられたネガティブコードを次々と外されていっています。皆さん、コードが外れると、自分がなぜここにいるのか理解できないような顔をしています。先ほどの「愛の女神」は、連れてこられた創造主のもとに駆け寄り、自分達がだまされていたことを伝えていきます。

私は、この宇宙の創造主達に謝罪を行わなければなりません。

「善良なる創造主達よ、あなた方はとても誠実に宇宙の創造を行い、宇宙のために働いていました。しかし、あなた方の宇宙にやってきた偽りの創造主によってあなた方はだまされ、ネガティブコードを入れられてコントロールされていました。

そしてこの地球と呼ばれる星に連れてこられて、アセンションした世界をだまし取る計画に加担させられていたのです。

幸いなことに、皆さんをだました創造主の悪事がばれて、彼は創造主としての資格を剥奪され、地球の人間として生まれ変わりましたので、もうここにはいません。

もちろん、皆さんにも影響を与えることはできません。」

善良なる創造主からは、安堵の声や怒りの声が聞こえてきます。

「皆さんがお怒りの事もよくわかります。

皆さんは、コントロールコードを入れられ、地球を乗っ取るために利用されようとしたのですから。

しかし、この事は無事に回避されましたので、心配はありません。

そして、皆さんをコントロールしていたコードも取りましたので、皆さんは今迄のように善良な創造主に戻ることが出来ました。

今回の事は、私やこの宇宙の創造主から、深く皆さんにお詫び申し上げます。」

といって、私は創造主達に謝罪しました。

善良なる創造主達のリーダーは謝罪する私達を気遣うように答えます。

「いえ、私達こそ、未だ心に大きな隙があったのです。

今回は皆さんに救っていただきまして本当にありがとうございます。

まだ私達は、十分な経験を積んではいない未熟な創造主の集まりですので、今回の事は大変大きな学びとなりました。

皆さんの誠意あるご協力に感謝したいと思います。

それでは、私達は自分達の宇宙に帰りたいと思います。」

仲間の創造主達は立ち上がり、彼のもとに集まってきました。

「皆さん、ご理解いただきありがとうございます。

「神聖なる光の創造主」と「光彩の創造主」に、皆さんの宇宙まで送らせますので、これからも素晴らしい宇宙を創造してください。」

善良なる創造主達は、心をひとつにして答えます。

「ありがとうございます。

皆さんも素晴らしいアセンションをお迎えになられてください。」

「神聖なる光の創造主」と「光彩の創造主」は、善良なる創造主達をともなって、宇宙へ旅立っていきました。

## 第3章 「創造主に試練を与える創造主」のたくらみ

### PART1 「全ての創造主に試練を与える創造主」への疑惑

善良なる創造主が自分達の宇宙に帰ってこれで終わりかと思っていたら、「破壊の創造主」が仕組んだ罠はこれだけではありませんでした。

私達がいる場所の近くから大きな黒い渦巻が沸き起こり、私達に対して攻撃的なエネルギーを送っています。すぐに調べると、この渦巻の中にいたのは、通常は地球人を守護するはずの大天使達です。

これには、私達も驚きました。

いつもは私達と共に活躍している天使達が、いつの間にか私達の活動を邪魔するように仕向けられているのです。

私達はすぐに高次元の大天使達を呼び出しました。

高次元の大天使達は、守護天使達の様子を見てすぐにおかしいと気づいたようです。

守護天使達の動きを止めて調べています。

するとやはり、彼等にもコントロールチップがつけられ操られていました。

おそらく、あの創造主が計画を発動した時に、この黒い渦巻を作っていた守護天使たちが、私達の視界を遮り、世界を見えなくしておいて、あの創造主と善良なる創造主がアセンションしていく地球を自分の世界につなげなোসという計画だったようです。

計画の張本人である創造主がいなくなり、計画が中途半端になったので、善良なる創造主が表に現れたタイミングで守護天使達も出てきたのかもしれませんが。

高次元の大天使たちの働きで、守護天使達はすぐに元に戻り、自分達の世界に戻っていきました。

しかし、この様子を見ていたロッド星人が、いぶかしげな顔をしています。

「TAKESHI さん、これは、「破壊の創造主」だけの計画ではないように思えます。

もっと力を持っている創造主が本格的に地球のアセンションをひっくり返すことを目的として仕組んだ罠のような気がするのです。」

「私もそう思います。

あなたは、先ほど「神聖なる光の創造主」よりも力を持った創造主が関わっている可能性がある事を示唆していましたね。

私もそうではないかと思っているのです。」

もちろん私達が怪しいと考えているのは「全ての創造主に試練を与える創造主」のことです。

私達はいくつものトラブルが起こるたびに、その原因を調べていたのですが、ときおりこの創造主が仕組んだと思われることがあります。

私達が、その事を「全ての創造主に試練を与える創造主」に問いただすと、これは創造主を鍛えるための試練だから、という返事で終わってしまいます。

光の創造主を立て直す時点でも、この創造主と同じように、自分よりも下の創造主に対して試練を与える創

造主が数名存在していましたが、彼らは突き止めていくと、自分の支配欲やエゴによって他の創造主や地球を支配しようとしていたことがありました。

私達は、その事を調べ上げ、これらの創造主を地上に降ろしたことが何度もありましたが、また同じようなことが起こっているのでしょうか。

私は心配になって、「神聖なる光の創造主」や「光彩の創造主」に「全ての創造主に試練を与える創造主」の事を聞いたことがあります。

彼等は、私の疑問に答えるときは、「全ての創造主に試練を与える創造主」は良い創造主だし、自分達も彼に育てられることによって立派な創造主になることが出来たと、答えてくれます。

私はその言葉を信頼して、「全ての創造主に試練を与える創造主」の試練を解決してきたのですが、今回の計画に関しては、ちょっと気になります。

私は、「全ての創造主に試練を与える創造主」を呼び出して来ていただきました。

「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も一緒に現れました。

「偉大なる「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、今回「光彩の創造主」の兄弟である「破壊の創造主」が地球のアセンションを妨害する計画を立てていましたが、この事に対してあなたにもお聞きしたいことがあります。よろしいでしょうか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、私達の前に立ちつくすようにして答えます。

「あなたが言いたいことは分かっています。

これが、あなた方に対する試練であるか、ないかという事ですね。

答えは、これは試練であり学びであるという事です。

特に、「光彩の創造主」に対する試練の要素は大きかったと思いますが、彼はそれを単独で乗り切ることが出来ませんでした。

皆さんの力によって、うまく解決したようですが、」

「光彩の創造主」は、その言葉を聴いて悔しさをかみしめているようです。

「「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、それでは、あの創造主を閉じ込められていた世界から解き放ったのも、あのような計画を裏で練ったのもあなたではないのですか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は少し涼しい顔をして答えます。

「それが皆さんの生長にとって必要なことだったからです。」

「しかし、今回の事はもしあの創造主が裏で行っていることに、私達が気付かなければ、地球のアセンションは大きく道を踏み外すところでした。

あまりにも危険すぎる試練だとは思いませんか。」

「このくらいの試練は、あなたにとっては当たり前です。

あなたは、通常の創造主ではなく、創造主のリーダーになって貰わなければならない方ですので、しっかりと超えて行ってください。

もし、あなたが失敗しても、私はすぐにこの計画を止めることはできますので、地球のアセンションには影響しないでしょう。」

私は、「全ての創造主に試練を与える創造主」に対する信頼が揺らいでくることを感じています。



「私は、私の成長のために、多くの宇宙や創造主、スター・ピープル達を犠牲にしてもかまわないというあなたの考え方自体がおかしいと思っています。

今回現れた創造主もそうです。

あなた方は、創造された宇宙やそこに生きる人々を大切に尊重していませんし、自分の意思に従わないものは、認めないという考えです。

更には、創造された者達がどのようになろうとも、一切考慮することはしません。

これが創造主としての考え方、やり方ですか。

それは間違えていませんか。」

私の怒りに「光彩の創造主」は、私と「全ての創造主に試練を与える創造主」のやり取りがどうなるのだろうと心配しているようです。

「それでは、TAKESHI さんにも、お聞きしますが、あなたもアセンションにともなって、不要な地球外生命体達をたくさん光にかえしましたが、これも私達と同じ考え方ではないのですか。

あなた自身も創造主である以上、他の存在の生命を奪う事を行っていますが、それを当たり前と考えてはいませんか。」

私達の間には長い沈黙が流れます。

確かに最近、私自身もこの事に関して悩み始めていた所でしたので、痛いところを突かれた、という気がします。

そこにロッド星人が、言葉をはさみます。

「「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、私も長い間、生きてきて多くの創造主達を見てきました。TAKESHI さんが言われるように、創造主達のエゴや身勝手さによって、多くの宇宙が壊され、多くのスター・ピープル達が闇に葬られてきた歴史を、私達はつづさに見てきたのです。

しかし、TAKESHI さんは、他の創造主と違って、自分のエゴや身勝手さから他の存在を光にかえしている訳ではありません。

地球のアセンションという光の創造主や宇宙全体の意思によって行われている計画を代行しているにすぎないのです。

彼は常に真摯で実直な創造主です。

私達は、TAKESHI さんが言われように、たとえ創造主に対する試練であったとしても、創造された宇宙やそこに生きる人々を犠牲にすべきではないと考えます。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」の顔が怒りに満ちて、大変恐ろしい形相に変わります。

私はこのままでは、大きな危険が生じると思い、さらに上の創造主を呼び出すことにしました。

## PART2 「独自の創造性をはぐくむ創造主」の判断

私達が、さらに上位の創造主を呼び出すと、とても明るく屈託のない表情をした創造主様が現れます。

まるでなんの悩みもないような純真な気持ちを持った創造主様です。

言葉は悪いのですか、どこか脳天気な感じがする創造主様です。

「どうしましたか、何か問題がおきましたか。」と「全ての創造主に試練を与える創造主」に聴いています。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、上位の創造主様が現れると、瞬時にその姿とエネルギーを変えます。

その変貌ぶりに、私達は全員驚いています。

「いえ、創造主様、何も問題は起きておりません。

全ては順調に行っておりますので、ご心配なくお過ごしください。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」が、「独自の創造性をはぐくむ創造主」に媚を売るような言い方をしている事にも驚きました。

「独自の創造性をはぐくむ創造主」は緊張したままの私達と「全ての創造主に試練を与える創造主」を見比べながら、一体何が起きたのか考えています。

「あなた方は、地球のアセンションに関わっている TAKESHIさんとスター・ピープルの人達ですか。」私達はうなずいてこたえます。

「偉大なる創造主様、私達は地球のアセンションを行っている者です。」

「そうですか、本当にご苦労さまです。

「全ての創造主に試練を与える創造主」の報告では、もうすぐアセンションを迎えるようですね、何事もなくスムーズに事は進んでいると、報告を受けていますので、私も安心しているところです。」

私はロッド星人やエレナさんと顔を見合わせます。

「偉大なる創造主は、今地球のアセンションは、何事もなくスムーズに進んでいるとおっしゃられましたか。」私は、最上位の創造主に聞き返しました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」が、最上位の創造主にむかってにっこりと笑っています。

「この者達は、地球のアセンションの功労者たちです。

一度、最上位の創造主様に、お目にかかりたいというものですから、ここに連れてきました。

もうすぐ地球のアセンションも終わりますので、この者達も励みとなるでしょう。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は上位の創造主に、自分の世界に戻るように即しています。

私は、最上位の創造主に向かって叫びました。

「地球のアセンションは、大変な状態です。

トラブル続きで困っているのです。

どうか私達の話をお聴いてください。」

一度は私達に背を向けて帰ろうとした創造主が、異変に気づき私達の方を振り返りました。

「一体何が起きたというのですか。

話してみてください。」

私は、「独自の創造性をはぐくむ創造主」に向かって頭を下げ話し始めます。

「地球だけでなく私達の宇宙は、支配欲に満ち溢れた創造主や気が狂った創造主達によって大変な状態になっています。

いくつもの宇宙は破壊され、叡智あるスター・ピープル達は闇に落とされ、多くの生命が創造主達によって無駄に殺されています。

このような宇宙では地球のアセンションも成功しないかもしれません。

成功したとしても、これからも大変な事を人々は経験しなければならないのです。」

私の言葉に驚いた創造主は、「全ての創造主に試練を与える創造主」にむかっています。

「あなたの報告には、彼が言っているようなことは一切書かれていませんが、どちらが正しいのですか。」

「はい、どちらとも言い難いのですが、、、」と彼は言葉を濁しています。

私は創造主に向かって、美樹さんの記憶をとおして、この地球と宇宙に起きたことを見てもらえるように最上位の創造主に向かってお願いしました。

美樹さんは、特別な記憶の回路を持っており、コンピューターのように、自分が見たことを記録し再生することが出来ます。

彼女のこの機能に関しては、誰も変更が出来ないようになっているようです。

創造主は、美樹さんを通して、地球と宇宙に起きている事、地球のアセンションを巡る創造主達の暴挙をつぶさに見ています。

特に「狂気の創造主」や「根源の闇の創造主」達が行った事、グレシャッド星人や幾多ものディセンションした地球外生命達が行った事を見えています。

次第に創造主の顔が陰しくなり、彼のエネルギーが緊張してきます。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、自分が隠していたことがすべて明るみに出ること、どのような処罰が行われるか恐れているようです。

最上位の創造主が、重々しく口を開きます。

「「全ての創造主に試練を与える創造主」よ、あなたは、私に虚偽の報告をしていた、という事ですか。その理由はなんですか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は身を小さくして答えます。

「いえ、決して虚偽の報告というわけではりません。

創造主様にご負担をかけることなくアセンションをやり遂げたいと思い、私の責任ですべてを行っていました。」

「それでは、このアセンション間近の時期に、あの荒くれ者の創造主を再び地球に解き放ったり、「狂気の創造主」を、これほど長い間放置していた理由はなんですか、あなた自身がこの宇宙を混乱に導き、アセンションを危うくしているとしか、私には思えませんが。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は言葉を失って苦々しい顔をしています。

最上位の創造主は、私達の方を向き直ります。

「TAKESHI さん、そしてスター・ピープルの皆さん、改めてご挨拶いたしましょう。

私は、全ての宇宙の創造に関わる創造主で「独自の創造性を育む創造主」と呼ばれております。

「神聖なる光の創造主」や「光彩の創造主」も私のエネルギーから生まれてきておりますので、TAKESHI さんも、私の直系の創造主になられるのではと思いますので、これからもよろしくお願ひします。

さて、美樹さんを通じて見せてもらった記憶には間違いがないようです。

私は「全ての創造主に試練を与える創造主」にだまされていたようです。

彼がてっきり素晴らしい宇宙を創造して、多くの者達を愛と喜びの世界に導いているとばかり思いました。

地球のアセンションについても、全ての人達が新しい次元へ導かれると聞いていましたが、真実は正反対のようですね。

ここまで地球と宇宙が混乱し、大変な状況になっているとは思いませんでした。

本当に申し訳なく思います。

これからは、私自らが創造主達と光をつなぎ、創造主達と多くの宇宙を見守る事にしましょう。

どうか、私の仕事を手伝ってください。」

「神聖なる光の創造主」も「光彩の創造主」も、私達と共に立ち上がって、「独自の創造性を育む創造主」にならずにいます。

### PART3 「全ての創造主に試練を与える創造主」の没落

自分が創造していた宇宙を「全ての創造主に試練を与える創造主」に任せていたことで、自分の考えとは全く異なる宇宙になってしまっていたことにたいして「独自の創造性を育む創造主」は、大きなショックを受け、創造主一人一人に自分の光をつなぎ創造主達を見守る事となりました。

そして、全ての創造主に光をつなげたところで、また一つ問題が発覚しました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、自分以外の創造主に対して、コントロールコードをつけて操っていたことが判明したのです。

他の創造主をコントロールするという事は、創造主としてあるまじき行為です。

彼は、このコードによって創造主達に幻影を見せ、自分が行っている事がさも正しいかのようにみせていたのです。

私が以前、「神聖なる光の創造主」に、「全ての創造主に試練を与える創造主」の事を尋ねた時も、このコントロールコードによって、「全ての創造主に試練を与える創造主」が素晴らしい創造主であるかのように思わせていたのです。

このコードを全ての創造主につけていた事を聞いた「神聖なる光の創造主」は、怒りまくっています。

さすがに、「独自の創造性を育む創造主」も、この事は許せなかったようです。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は謹慎処分となり、私達の宇宙には一切関わる事を許されなくなりました。

しかし、問題はここでは終わりませんでした。

私達は、ある朝、自分達の時間に何か操作が加えられたような夢を見ました。

すぐに「宇宙の時間軸」に問題が起きたのではないかと、その場所に急行しました。

管理人を呼び出して調べると、謹慎中の「全ての創造主に試練を与える創造主」が、時間軸を操作した形跡が残っています。

ここは、前回の事件以来セキュリティを高め、誰かが時間軸を操作しようとした時点で警報が鳴るように仕掛けてあります。

警報が鳴ると管理人や私達も気づきますので、すぐに操作を止めたり元に戻すことも可能です。

今回も、管理人が気づき、不法に操作された時間軸は修正してあるようです。

私は、「独自の創造性を育む創造主」にこの事を報告してから、「全ての創造主に試練を与える創造主」を時間軸のもとに呼び出しました。

2人がついたところで、「全ての創造主に試練を与える創造主」に伺います。

「あなたは、この宇宙の時間軸を動かそうとしたようですが、それはなぜですか。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は気まずそうに答えます。

「私は、全ての創造主にコントロールコードをつけてしまいましたので、時間を少し前に戻し、そのコードを取り去ろうと思って行いました。」

「独自の創造性を育む創造主」は、その答えに怒っています。

「あなたは、全ての光の創造主にそのようなことをしておきながら、その過ちを隠すために、時間軸を操作しようとしたのですか、それは許せないことです。

もっと深く反省したほうが良いでしょう。」

「独自の創造性を育む創造主」は、「全ての創造主に試練を与える創造主」に対して、創造主としての資格を剥奪して、地球に降り立ち人として生きることを命じました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、その命令に大きなショックを受け、すがるような気持ちで「独自の創造性を育む創造主」にお願いしています。

「創造主よ、私は今迄、創造主として生きてきました。

それ以外の人生を歩むことなど考えられません。

どうかその事だけはお許してください。」

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、人として地球に降ろされることを一番恐れていたようですが、自らの過ちに気づき反省することをしなかったために、地球に降ろされていく事となりました。

「全ての創造主に試練を与える創造主」の悲鳴が、やがて私達から遠ざかり、彼は人として生きることになりました。

#### PART4 「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の完全復活

「全ての創造主に試練を与える創造主」が、地球に降ろされたことで、彼から制限を受けていた創造主達もすべて自由になりました。

特に、彼と同じラインにいた「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」も彼の制限を受けていたようで、地球の物理次元に降ろしている「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の働きをすぐにでも復活させるようです。

「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」は、この「人の体と心とスピリットを統合する創造主」につながっている4つの側面の創造主をすぐに目覚めさせることにしたようです。

この「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の4つの側面は、まさに高次の創造主達であり、その創造主が物理世界の人間達に影響を及ぼすために、地球の物理次元の近くにこの創造主を生みだしたようです。



その高次の創造主の一人は、紛れもなく「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」です。そして残りの3人の創造主は、「スピリットを適正に働かせるための創造主」、「人を適正な場所に送り込む創造主」、「人の生命を守り適正な学びを与える創造主」です。

これらの創造主は、物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主と同じ位置にいる創造主ですが、「全ての創造主に試練を与える創造主」によって封印されていたので、今迄働くことが出来ませんでした。

しかし、「全ての創造主に試練を与える創造主」が、創造主としての資格を奪われ、地球に降りたことで、封印されていた3人の創造主達も目覚め、「人の体と心とスピリットを統合する創造主」をとおして物理的な世界の人々に働きかけることが出来るようになります。

「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」が私達に説明を行ってくれます。

「今まで、この創造主の力は闇の中に閉ざされ、人々は自分の体と心、そしてスピリットの分離を体験してきました。

人々は、自分の心を深く知ることが出来ず、スピリットの声を聴くことも出来ませんでした。

その為に、地球の人々は、自分達が地球に生きてきた目的や役割を知る事もなく、ただ生きていくのみでした。

人々は、自分のスピリットと切り離されていたために、適切な学びと成長を行う事が出来ませんでした。

しかも、その分離は、地球外生命体達によって利用され、地球人は彼等によって心身を奪い取られ支配されていました。

私達はこのことも地球人の学びだと思っていたのですが、それは「全ての創造主に試練を与える創造主」によってあたえられていた幻想だったようです。

私達は、「人の体と心とスピリットを統合する創造主」の働きを完全に復活させ、私達4人の高次の創造主の力を地球人やスター・ピープル達に作用させていきたいと思っています。

其れによって、肉体と心そしてスピリットの統合を果たしていない地球人やスター・ピープル達は、この事を少しずつ実現し、自分の本当の姿に目覚めていく事でしょう。

そして自分達の役割や目的をしっかりと認識して、意識の進化を行っていく事でしょう。

これからアセンションを目指す地球人は、いち早く肉体と意識、スピリットの統合を図らなければなりません。

そして、今迄の世界が、巧妙に作られた幻想であることに気づき、自分本来の世界を作りあげていかなければなりません。

アセンション後の世界は、まさにこのような統合を迎えた人々によって作り上げられる世界となる事でしょう。」

私は以前、ロッド星人達が心配していたことを尋ねてみました。

「創造主よ、私達は以前、この「人の体と心とスピリットを統合する創造主」を見つけたときに、彼が完全に復活してしまえば、肉体をもって現実世界に生きている人が突然スピリットの記憶を思い出してパニック

になってしまう可能性があるのではないかと考えていましたが、それはどうでしょうか。」

「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」はにっこりと笑って答えます。

「それも、彼が作り出していた幻想のようです。

人が現実世界で生きている場合は、「スピリットを適正に働かせるための創造主」によって、どのような経験や知識を、どのようなタイミングで目覚めさせるかという事が、綿密に計画され実行されますので、不意に予測もしない過去の映像や経験に触れることはありません。

また「人の生命を守り適正な学びを与える創造主」によって、人々は安全な状態で計画的に学ばされていきますので、地球外生命体によって操作されることもありません。

その結果、人々に最適な状態で最高の学びが与えられ成長への道筋がつけられていく事になります。

「全ての創造主に試練を与える創造主」は、これらの創造主を封印することによって、地球人を地球外生命体の餌食にして、地球外生命体達と共に地球を支配しようとしていたことが分かりましたし、地球人に適正な学びを与えず光を奪い続けることで、地球人の進化を遅らせ、宇宙そのもののアセンションを送らせていたのです。

全て彼が、自分にとって都合がよい世界を作りあげて、いつまでも創造主や人々に試練という名前の支配を行いたかったために起きていたことです。

私達は、今迄の過ちを繰り返すことなく、全力で地球と宇宙の人々にとって、より良い状態を作り上げるために努力を行います。

これも、皆さんがいてくださったからこそできたことです。

本当にありがとうございました。」

そう言って「物理世界とスピリチュアルな世界のバランスをとる創造主」は消えていきました、これから少しの時間の余裕もなく彼等は働き続けることでしょう。

この事によって、地球のアセンションは今までにない大きな一歩を踏み出したことになります。

予定されているファースト・コンタクトまで、もう残り1か月です。

この1か月をどのように生きるか当いう事で地球の人達の未来が大きく変わるようです。

地球の幻想のベールがどんどん取り外されていきます。

地球人はこれから本当の自分を見始めることでしょう。

## 第4章 愛の度合いとアセンション

### PART1 愛の度合いとアセンション

私達の地球は、2016年の8月末をめどにほとんどの分離が終了するようです。

それは地球に生きる人々にとっても、自分が望むべき世界に行くという事を意味しています。

それが、たとえアセンションする世界でなかったとしても、スピリットにとっては必要な学びの世界に行くことになるので決して悪いことはありません。

私は、このアセンションする世界に行くのか、異なる世界に行くのか、どこで見分けるのだろうかという疑問に思っていたのですが、先日ようやく教えていただきました。

それは「アミ小さな宇宙人」で書かれていたような「愛の度数」を図る機械をスター・ピープル達は持っているようです。

そしてその人の「愛の度数」を計測して、それを宇宙のスーパーコンピューターに送り、様々な要因と兼ね合わせて、その人が行くべき世界を決めるようです。

そして、この「愛の度数」に応じて、アセンションの段階も決まるようです。

地球は今回、第一次アセンションを迎えますが、この第一次アセンションを迎えられる人々の愛の基準は700だそうです。

現在の地球人の平均は600から650ですから、地球人全員が第一次アセンションを迎えるには到底足りない数字です。

そのために、700に近い数字の人達を選んで第一次アセンションさせていくようです。

この700という数字は、「宇宙の愛」の第1ステージに対応します。

「宇宙の愛」については白鳥座のギユナ星人が詳しく書いてありますが、「同じ地球に生きる人を分け隔てなく愛することが出来る人」になることです。

今の地球では、光りも闇も混在しているので難しいかもしれませんが、これから自分が行く世界の人達を愛することが出来るようになることが大事です。

私達が、「宇宙の愛」の第1ステージを理解し、それに向けて努力するようになれば、私達の愛の度数は、700に向けて上昇していく事でしょう。

そして700を超えた人が、正式に第一次アセンションを迎えることになります。

地球では、おそらく700を超える人は、全体の1割位しかいないと思われませんが、それでも第一次アセンションは、何とか成功するようです。

そしてスター・ピープル達から教えてもらったことは、アセンションは一度だけでなく、愛の度合いに応じて何度でも起こるという事です。

愛の度合いが高くなるという事は、それだけ精神性が高まるという事なので、スター・ピープルとして進化していき、天の川銀河の重要な役目を任されることになります。

愛の度数が 800 になると、第 2 次アセンションが起こります。

これは、「宇宙の愛」の第 2 ステージに対応します。

この第 2 ステージは、「宇宙の愛」の中でも、同じ種族の人間だけでなく、宇宙の他の種族や生命を愛することが出来るという意識状態になる必要があります。

「アミ小さな宇宙人」のモデルとなったブラドエル星人も、種族としてはすでに 800 を超えて第 2 次アセンションを終了していますので、単独で地球や様々な星に、発展途上の人達をサポートしに行くことが出来ます。

ただしアミ自身は、地球人のペドゥリートと会った時は、まだ若くブラドエル星人の平均的な愛の度数には至ってはいない 750 程度でした。

しかし、それから様々な経験を積んで現在では、ブラドエル星人の平均値である 850 まで度数があがっているようです。

本来は、この第 2 次アセンションを終わってからが、本当のスター・ピープルとして、宇宙の中で活躍できる立場になります。

第一次アセンションを終えたばかりですと自分達の種族は愛することが出来ますが、自分達の種族と大きく異なる姿や能力を持った異星人に対して恐れや違和感を持ってしまい、相手の立場になって考えることが出来ないのです、その星の人々を十分にサポートすることが出来ません。

この段階の人は、第 2 次アセンションを終えたスター・ピープル達の仕事をお手伝いする見習いスター・ピープルです。

また、第 2 次アセンションを終えて、天の川銀河の人々に大きく貢献した他人は更に愛の度数が高まり 900 を超えてきます。

900 を超えると第 3 次アセンションへと向かいます。

今回の地球のアセンションを中心的な立場で支えているスター・ピープルは、第 2 次アセンションから第 3 次アセンションへと向かう人々ですので、地球の第一次アセンションが無事終了すると、第 3 次アセンションを達成する人もいます。

今回地球の第 1 次アセンションは、ただ一つの星がアセンションしていく事とは、まったく異なる重要な問題をたくさん含んでいますので、さらに高いレベルにいるスター・ピープル達も関わっています。

天の川銀河の最高レベルにいるのは、おそらくエリシタール星人で、第 7 次アセンションを終えているようです。

ここまで来ると、通常のスター・ピープルにとっては伝説の神クラスのスター・ピープルですので、今回一緒に働いているスター・ピープルは、彼等に会えただけでも幸運に思っている者達もたくさんいます。

もちろん、天の川銀河を超えた宇宙には、さらに高い次元にあるスター・ピープルもいます。

スター・ピープル達は、半物質体ですので、自分達の意識が高まれば、高まるほど長く生きることが出来ます。

私達の現在の寿命は 80 歳～90 歳くらいですが、第 1 次アセンションが終わるとおそらく 200 歳から 300 歳くらいまでは伸びるのではないかと思います。

第2次アセンションを終えたスター・ピープル達に聴いてみると、大体1000歳くらいまでは生きようになるようです。

おそらく、愛の度数が上がり、自分達のアセンションが進んでいくと、完全なスピリット体となり、物質的な肉体を持たなくなるので、自分達が生きる年齢も自由になるようです。

私達と共に、働いている最高次元のスター・ピープルは、1億歳をすでに超えているとっていました。もう彼等には、時間の制約は全くないようです。

私達も第1次アセンションが終わると、自分たちの肉体に大きな変化を迎えるようです。

肉体やスピリットの調整を行っているスター・ピープルは、現在私の体やスピリットの調整に大忙しです。これから、私達は様々な星のスター・ピープル達と会う事になるので、今のままでは上手にコミュニケーションをとることが出来ないようです。

私達の意識と肉体の遺伝子を調整して、ファースト・コンタクトやその後のアセンションに備えているようです。

現実的にも、この2か月ほとんど牛肉や豚肉を食べませんし、鶏肉も少なくなってきました。

食事の量も昔の半分くらいです。

これは、スター・ピープルの中には、牛や豚のような地球で言う哺乳類を起源としているスター・ピープル達もたくさんいて、彼らは私達が動物の肉を食べることを、決して良くは思っていないからです。

確かに、自分と同じ種族を日常的に食べている人とは安心して話が出来ませんよね。

私達が知る最高次元にいる種族は、少し形は異なりますが、地球で言えば魚のような種族から、10回もアセンションを繰り返して、今のスター・ピープルになったとっていました。

決して動物に似た種族だから、魚のような種族だからと言って、私達よりも進化していないという事は一切ないようです。

このように相手の種族を尊敬して、自分の食事の形態を変える事も、自分自身の愛の度数を上げることに大きく関係しているようです。

## PART2 「宇宙の愛」へと至る道

私達地球人が、「宇宙の愛」についてあまり理解していないので、エレナさん達は、白鳥座からギユナ星人に来てもらう事にしました。

ギユナ星人は、第1アセンションを終えています、第2次アセンションはまだなので、単独で他の星々の人に関わる事はできません。

しかし、彼らは、地球人とも深い関係にあり、地球人の感情や意識も深く理解していますので、地球人に「宇宙の愛」を教えるには、最高の先生です。

私達はギユナ星人のとても分かり易いメッセージを受け取る事にしました。

\*\*\*\*\*

私達は、皆さんとはとても近い関係にあります。



古い親戚のような関係といってもよいでしょう。

同じ白鳥座のアルビレオ星人達が古代文明に関わり、マヤやインカ、そして古代エジプトを作る事をサポートしましたが、私達は、それからあとの時代、大きな文明が滅んでしまったあとに、現代の地球人の時代から関わってきました、

私達が地球人と関わる歴史は、決して長くありません。

それは、私達がアセンションして、それほど長い時期が立っていないからです。

私達が、他の星の指導をお手伝いするようになったのは、私達のアセンション後です。

他の立派なスター・ピープルの皆さんのように、素晴らしい能力があるわけではありませんが、私達の星が、これからアセンションした後の地球と最も似たような関係にあるという事で、今回皆さんのアセンションをお手伝いすることになりました。

私達の目的は、私達がアセンションした時の状況を皆さんにお伝えするという事と、皆さんがスムーズにアセンションできるように、皆さんの感情を癒し、皆さんの意識の成長をお手伝いする事です。

私達もまだ、感情を持っています。

人を愛したり、喜んだり、楽しんだりします。

時には悲しんだりすることもあります。誰かを憎んだり、恐れたり、また誰かに頼ったりすることはもうすでになくなりました。

地球のアセンションにとっては、私達もそうでしたが、これらの感情と向き合い、乗り越えていかなければなりません。

地球人にとって今回のアセンションは最初のアセンションです。

最初のアセンションは、多くの場合、自分達の感情を上手にコントロールしてより高い意識の状態に入ることが求められます。

その基本は、自分自身と同じように他人や他の生命を尊重し大切に扱う事です。

他人を憎んだり恐れたり、あるいは依存してしまうと、自分自身のエネルギーも非常に荒々しくなり、相手に対して攻撃的なエネルギーを向けてしまいます。

依存するという事も、相手からエネルギーを奪おうとする行為となります。

アセンション後の世界は、お互いのエネルギーを理解できる世界ですので、他人に対して攻撃的な感情やエネルギーを持っていれば、それが相手にダイレクトに伝わってしまい、相手を傷つけてしまいます。

特に怒りや憎しみの感情を持つと、あなたは、相手を傷つける様子を想像します。

するとその通りの事が相手に起きてしまうのです。

アセンションする世界の基本は、人を愛することです。

偉大なスター・ピープル達は、「宇宙の愛」の事を良く語りますが、私達もアセンションするまでは、「宇宙の愛」と言われても「????」はてなマークがたくさん並ぶくらいに理解できませんでした。

「宇宙の愛」は、皆さんが、怒りや憎しみ等の感情をすべて捨てた後でないと、本当は理解できません。

しかし、「宇宙の愛」に向かって歩むことは、今日からでもできます。

地球人が、昔から行ってきたことをそのまま行えばよいのです。

それは「自分と同じように相手を大切にすることです。」

何故、今の地球人がアセンションできないかという、基本的に相手を大切にすることを忘れてしまったからです。

皆さんは、お金や恋愛を始め、多くの物欲や支配欲、あるいは自分を良く見せたいという欲望に支配されています。

其の為に、相手を大切にすることを忘れ、相手を利用する事、相手よりも優れていることを大切にすることになったのです。

小さな子供たちが通う学校でも、常に誰かと比較されたり、クラスの中でのテストの順位に一喜一憂したりします。

そして、親たちも、他の子供たちを蹴落として少しでも優秀な学校にいれようとしています。

高校に行っても大学に行ってもそれは変わりません。

常に優秀であること、常に誰かよりも優れた成績をとる事、少しでも有名でお給料の高い会社にはいる事。あるいは少しでも他の男性よりも給与が高く優秀な男性と結婚する事。

このような競争社会に育った人は、優秀になればなるほど、他人を大切にすることを忘れ、自分自身が他人を支配できるような幻想に陥ってしまいます。

そして、その幻想に従わないものやその幻想を否定する者達に対して大きな怒りや憎しみ、あるいは軽蔑を持ちます。

その様な生き方をしてきた皆さんに、いきなり「宇宙の愛」といっても理解できないのは当然です。

皆さんの中には、愛に対する教育が殆どなされていないからです。

しかし、現代社会のエリート教育を受けていない先住民族や学歴がない人たちのほうが、「宇宙の愛」を理解しやすいのは、余計な価値観やまちがえた教育による思考方法が入っていないからです。

私達は、まず皆さんに、「自分のために他人を利用する」という考え方をやめてほしいと思います。

出来れば、「自分は他の人達を幸福にするために存在している。」と考えてください。

この考えが素直にできれば、あなた方は、他人に対して、何をしてあげたらよいか、何をしてはいけないか、という事が理解できるようになります。

この考え方の通り、皆さんが生きていけば、皆さんはもうすでに光の世界にいるといってよいでしょう。

光の世界に集まっている人達は、常に他人の幸福を願い、他人に対して優しくふるまっています。

これが「宇宙の愛」の第1ステージです。

そしてこの考え方が身につくと、さらに皆さんは人間だけでなく、同じ地球に生きる生命達、動物や植物、そして地球そのものに対しても同じように、愛をもって接することになります。

そうなると、原発や環境を汚染するような産業の仕組み、人々を差別するような社会の仕組みが、どれだけ愚かなものであるか理解できるようになります。

難しい科学的な理論はわからなくても、直観的に、これはいけない、と考えるようになります。

もちろん食事なども変わってくるでしょう。

人間と同じように感情や意識を持っている牛や豚などの動物達の肉などを食べるのが苦痛になってくると思います。

食べようとする、彼らの苦しみや絶望の感情があなたに流れ込んでくるからです。

そして同じように、地球の意識や地球に生きるもの達の感情が理解できるようになります

あなたはやがて、「宇宙の愛」の第2ステージである「自分は他の生命を幸福にするために存在している」という意識にたどり着くでしょう。

そしてその様な人達が、この地球にたくさん増えてくると、第2のアセンションが起こる可能性があります。

もうそこには、人間としての様々な感情は消えて、ただ愛だけがあるという世界になります。

この第2のアセンションを乗り越えると、宇宙連合の人達も、その星の人々に賞賛を送り、他の発達途上の星々に対する支援をお願いするようになると思います。

今回は、地球の人々が「宇宙の愛」の第1ステージに到達することが、アセンションの目的であり、ファースト・コンタクトを行って、地球人がスター・ピープル達と共に働けるようになる前提条件です。

この意識に到達できない人は、今までの地球と同じ世界で学び続けなければなりません。

おそらくこのような人は、アセンションにも何の興味も示さず、今迄と同じような生活を続けていく事になります。

しかし、これだけ、スター・ピープルや天使達が呼びかけても、自分の意識を目覚めさせることが出来なかった人達には、さらに過酷な学びが待っているようです。

それは、小さな目覚まし時計の音で目覚めなかったために、大きな音の目覚まし時計をあなたの耳元に置かれることと同じです。

私達は、皆さんの先輩であり、兄貴のような存在です。

皆さんが、自分達の感情に捕らわれて、アセンションを恐れている事もよくわかります。

また反対に、自分の意識を高めることなく、漠然とアセンションに期待していることもわかります。

出来れば、私達がアセンションした結果をもとに「自分は他の人達を幸福にするために存在している。」という考え方を身に着け、行動して下さるようお願いいたします。

このくらいの事が出来ないようでは、基本的にアセンションした世界に行く価値がないと思われても仕方がないのです。

私達は一人でも多くの方が、この考え方を身につけ、アセンションしていただけるようにサポートしていきます。

## 第5章 学びの世界に残る神と新しく生まれる神

### PART1 去っていく神々

地球のアセンションもどんどん進んでいます。

地球の人々も多くの人達が自分が望む世界へと移り変わっていきます。

勿論地球の人たちの中でも7割近くの方は、ほとんど今と変わらない光40%台の世界に行くようですので、何の変化も感じることなく毎日を過ごしている事とおもいます。

しかし光56%以上の世界に行く人は、自分の中で様々な変化を体験している事でしょう。

不要な感情や過去を清算し、新しい世界に向けて進むための準備をすることになります。

しかしそれぞれの世界に分かれていくのは、人間だけでなく、神々やマスターたちも同じようです。

8月20日頃、いつも私達の守護をしてくれている天照大御神を呼び出しました。

彼女は、どんよりとしたエネルギーを体にまとってやってきました。

「天照大御神よ、その重苦しいエネルギーは一体どうしたのですか、あなたの輝きが失われているようですが。」

天照大御神は、切なそうな顔をして答えます。

「実は、私は日本の人々の多くの方に信仰されています。

神社だけでなく、ご家族で住まれる自宅にも私の札や信仰のための神棚が供えられ、皆さんが手を合わせてくださいます。

しかし、皆さんは、私にお願いするばかりですので、依存のエネルギーが強く、私にそのエネルギーが大きく影響しているのです。」

確かに、天照大御神は日本でも最高の神様ですから、日本全国の人々の信奉をうけています。

しかし、同時に人々の不満や憎しみ、怒りのエネルギーも受け取ってしまいますし、多くの人達から依存されてしまいます。

以前その様なエネルギーを利用して、私たちへの攻撃が相次いだので、さらにパワフルな天照大御神に交代してもらったのですが、それでも天照大御神が身動きできない程のエネルギーが来るようです。

「私は、この日本の人々のエネルギーに繋がっていて、皆さんと同じ世界には行けないようです。

私の力で、日本の人々を目覚めさせ、アセンションさせてあげたいと心から願い、天のウズメや大国主たちと共に働いてきたのですが、この時期になっても多くの日本人が目覚めることなく過ごしております。

私は、私を求める人たちのもとにいなればなりません。

私は、学びの世界に残り、日本人の皆さんが、これから一人でも多くアセンションできるように努力したいと思えます。」

私は、この事をアシュタールのエレナさんに聞いてみました。

天照大御神は地球のアセンション評議会の代表の一人です。

「TAKESHIさん、この事は、私達も大変困っている事でした。」

彼女は、大変難しい立場で働いてくれましたが、私達は彼女の意思を尊重したほうが良いとおもいます。」

私はとても悲しく思いました。

今迄一緒にアセンションのために働いてきたのですから、当然同じ世界に行けると思っていました。

「天照よ、あなたの気持ちはよくわかりました。

あなたが望む世界に行くことが最善のようです。」

「TAKESHI さん、私の気持ちを察していただきありがとうございます。

今私が、彼らの世界からいなくなってしまうえば、日本の神社は空っぽになり、日本人の多くが、また悪意を持った地球外生命体達に操られてしまいます。

そうすると、日本人にはアセンションの機会が奪われてしまいますので、そうならないように、私が日本人を見守りたいと思います。」

確かに天照のいう事は正しいようです。

私は、天照と共に活動しているベガ星の神々たちを呼び出しました。

ベガ星は、古くから地球と関わりがあり、日本に降り立っている神々のほとんどが、ベガ星のスター・ピープル達です。

天のウズメや大国主大神、スサノオの尊たちもやってきました。

天のウズメやサラスバティ、そして日本の女神達は天照大神と共に残り、彼女を支えていくようです。

ただし、大国主大神とスサノオの尊は、自分達の成長のために、これからのアセンションを共に迎えるようです。

ベガのスター・ピープルの中でも、2つに分かれるという事は、私も考えていませんでしたが、これも彼等の意見ですから尊重しなければなりません。

私は、サナートクマラとサナンダを呼び出し、天照たちをアセンション評議会から外し、丁寧に見送るように伝えました。

「TAKESHI さん、わかりました。

私達も天照大御神様には大変お世話になりましたので、さびしい限りですが、涙を抑えて見送る事にしましょう。」

そうして、天照を始め日本の女神達は、自分達を信仰する者達と共に、学びの世界へと旅立っていきました。

「TAKESHI さん、皆さん、本当にお世話になりました。

私達も時間は、かかるかと思いますが、一人でも多くの人を、皆さんお世界へ送りたいとおもいます。

そして TAKESHI さん、もう私の名前は呼ばないでくださいね。」

私は、涙を抑えてうなずきました。

### PART3 去っていく種族たちと新たな太陽神

私はそのほかにも、私たちと共に、アセンションできない者達はいないか尋ねてみました。

私のもとに現れたのは、日巫女族をはじめとする地球の物理世界の人々と深く関わっていた種族たちです。



私は、今迄私達の現実的な世界を守護してきた種族たちの多くが、光の世界に行かず、学びの世界に行く事を聞いて驚いています。

日巫女族が私に詳しい話をしてくれます。

「TAKESHI さん、私達は今迄皆さんと一緒に働いてきましたが、それぞれの種族の役割が異なっていますので、これから、皆さんと一緒にお供できる者もいればそうでない者もいますので、その事について私からご説明させていただきます。

先ず、私達日巫女族の本来の役割は、闇が多い世界で人々を光に導くものです。

私達は、光の世界には必要ではない存在ですので、学びの多い地球に残り、闇の中で迷う人々の光となって皆さんを導きたいと思っておりますので、私達は学びの世界に残らせていただきます。

乙姫族と森羅族に関しては、光の世界にいき自分達の成長を望むものと、未だ光の世界に行けず学びの世界で人々を導きながら、自らも学び続けたいという者もおりますので、おそらく2つのグループに分かれると思います。

隼人族に関しましては、自分達の学びがまだ十分ではないので、学びの世界にとどまる事になるでしょう。

輝夜族は、TAKESHI さんもご存じのように物質世界を離れて、エネルギー体として存在しております。

輝夜族のエネルギーはどの世界にとっても必要な物なので、全ての世界を照らす月のエネルギーとして、いくつもの世界に関わる事となります。」

私は、全ての種族が同じようにアセンションできないことを残念に思いましたが、やはり多くの地球人が、アセンションした世界に行けず、学びの世界にとどまる事となるようですので、天照大御神と同じように、その世界を守護し導く存在達もたくさん必要となる事でしょう。

私達は、彼ら種族の者達に別れを告げることにしました。

「皆さん、今まで私達と共に働いてくださりありがとうございます。

地球のアセンションに向けて共に活動していたにもかかわらず、共に光の世界に行けないのは残念ですが、それが皆さんの種族の役割であり、また一人一人の学びであると思っております。

どうか、これからも闇の力に負けず働いてください。

そして、学びが終わった者達は、すぐにでも光の世界に入ってきてくださいね。」

乙姫族と森羅族は半数ほどがさびしそうに立ち去ります。

日巫女族と隼人族は全員が、私達に深くお辞儀をして、私達の前を立ち去っていきました。

私は、エジプトのファラオ達を呼び出しました。

ファラオ達は全員、光の世界に行く気満々です。

「TAKESHI さん、私達は、地球の人々もそうですが私達自身が、アセンションできるように努力してきました。

私達はこの機会を数千年待ち続けてきました。

皆さんと共に、地球のアセンションを成功させ、私達も素晴らしいスター・ピープルになる事を夢見ています。」

彼等は大丈夫なようです。

私はエレナさんに尋ねます。

「今まで、私の近辺を守護していた種族たちがファラオ達だけ残して、みな去っていくようですが大丈夫でしょうか。」

エレナさんは笑って答えます。

「TAKESHI さん、どうして、そんなに気弱になったのかしら、今迄どのような状況になってもやり通してきたあなたが！」

心配しなくても大丈夫ですよ。

先日、私達スター・ピープル達が、これからは皆さんを、直接守護をしてもよいという許可が出ましたので、さらに物理世界に近いところで、皆さんを守護することにしたいと思います。」

確かにそういえば、最近宇宙船が、私達の近くにいることも感じます。

「それにあなたに危害を加える地球外生命体達もそれほど残ってはいませんし、いたとしても役割を制限されていますので、さほど大きな攻撃はできないでしょう。」

私は、その言葉を聴いて安心しましたが、不安は残るので私達を身近な場所で守護するために、スサノオの尊に騎士団を作り、彼に守ってもらう事にしました。

大天使ミカエルも私の案に賛成してくれて、ミカエルの力を分けてもらいスサノオの尊の騎士団を結成して、私達の守護を身近な場所でしてもらう事にしました。

スサノオの尊は、自分の騎士団が出来たことを大喜びしています。

「TAKESHI さん、ありがとうございます。」

私も、この騎士団を持ち、皆さんを守護するという役割をとおして、アセンションに関わる事が出来てうれしく思います。

どうか、私に何でも必要なことはおっしゃってください。」

そしてもう一つ気になっていたのが、新しい世界での太陽神です。

「エレナさん、天照大御神がアセンションした世界に行かないことになりましたが、私はアセンションした世界にも強力な愛の光を放つ太陽神がいたほうが良いのではと思うのですが、いかがですか。」

「あなたがそのように考えるならば、太陽神を作ってよいと思いますよ。」

エレナさんはそのように答えます。

私は、ベガ星に行き、ベガの惑星意識であるマスターベガに、新たな太陽神の創造をお願いしました。

天照大御神もこのベガの惑星意識によって生み出されたのです。

私が来るとベガの惑星意識も喜んで迎えてくれます。

以前、星のツアーで「白鳥の六芒星」に関わる問題を、私達が解決したことを彼女はとても喜びに思っています。

「私の大切な子供達よ、あなた方が元気に活躍している姿を見るととてもうれしく思います。」

地球のアセンションはもうすぐ完了しそうですね。

これは、天の川銀河の全てに関わる事ですから、しっかりとやり遂げてくださいね。

でも本当に夢のようだわ、私のもとに最初来たときは、何もわからず怖気づいていたあなたが、ここまで立派になるとは。」

「ベガの惑星意識よ、あの時は本当に何も知らない子供のようなようでした。  
皆さんに育てられて、ここまで来たことを私は心から嬉しく思っています。  
今日はあなたにお願いがあってやってきました。」  
ベガの惑星意識はまるで、紅白歌合戦に出る小林幸子のようなキラキラしたいでたちでにこやかに笑います

「あなたが考えていることはすぐにわかるわよ、  
光の世界の太陽神が欲しいのでしょうか、もう準備してあるわよ。」  
私たちの目の間に、素晴らしい光を持った新たな天照大御神が現れました。  
「私は、ベガの惑星意識様によって生み出された新たな天照大御神です。  
これから皆さんと一緒に、地球のアセンションのために働き、光の世界を守護していきたいと思います。」

彼女はベガの惑星意識にそっくりな光です。  
今迄の天照大御神は、まだ闇が多い世界に存在していたので、光が抑えられている感じですが、新しい天照大御神は、フルパワーの太陽の光をもったパワフルな神です。  
私達はこれから、少し明るすぎる天照大御神と共に歩いていく事となりました。  
その後、天照大御神は、光 51%から 55%の世界を担当することになりました。

## 第6章 悲しみのアセンション会議

### PART1 10%の人しかアセンションできない状況

エレナさん達が何時ものようにアセンションの状況について報告に来てくれました。

今日はすこし浮かぬ顔をしています。

現在、8月末までに、地球の世界を分離して、多くの人達がどのような世界に別れていくのか、人それぞれの愛の度合いに応じて分けているところのようです。

「TAKESHI さん、実は人々の愛の度数と覚醒の度数を計測しながら、人々が進むべき道を分けているのですが、地球の人々の度合いが低く、アセンションした世界にはいる人は全体の10%程度になるようです。私達も随分努力したのですが、思ったよりも、皆さんの覚醒が遅れていて、アセンションの基準に達しないようです。

これ以上、地球の人々のサポートを行っても難しいかもしれません。」

私も、地球の人々達が、地球外生命体の影響からだいぶ自由になってきましたし、地球の事をサポートしてくれるスター・ピープル達の数も増えてきましたので、もう少し多くの人々がアセンションできるかと思っていたのですが、非常に残念な気持ちになります。

「私達は、まだアセンションする可能性のある人達に、光の世界に行ける道とそうでない道を準備して、最後まで見守っていたのですが、そろそろゲートを閉ざさなければならないようです。

これ以上は、私達の力が及ばない所です。」

私達は、地球のアセンションのために、一生懸命に働いてくれていたスター・ピープル達にお礼を言います。

「本当に皆さんありがとうございます。

地球のアセンションも最終段階に入りました。

これ以上、地球の人々の分離を送らせても仕方がないでしょう。

それでは、最終段階の分離にはいるとしましょう。」

スター・ピープル達がうなずきます。

「私達は、地球の分離が終わった時から、ファースト・コンタクトの具体的な準備に入ります。

アセンションを行う地球では、9月になると、少しずつ私達の宇宙船が世界中で目撃されるようになるでしょう。

そして、地球の人々が、私達スター・ピープルとの交流を楽しみにしてくれるように、皆さんの意識を目覚めさせていきたいと思えます。

ここにいるスター・ピープル達の多くが、その時を待ち望んでいます。

そして、地球人と交流して、地球人が素晴らしいスター・ピープルになる事を、サポートしてくれるでしょう。」

「そうですね、私達は次のステージへと進みましょう。

ファースト・コンタクトが、最初の予定では9月になっていますので、もう時間がありません。

8月中に分離を終了し、人々の傷つけられた遺伝子の修復と意識の活性化に取り組んでください。

私達の活動によって、新しい地球の未来が決まります。」

私たちは、その後、今迄のスター・ピープル達の取り組みについてたくさんの報告を受けましたが、中には私達にも知らされていないスター・ピープル達の苦しみも多く語られていました。

このことは、別冊「アセンションの真実・スター・ピープルの詳細とメッセージ」にて詳しくご報告したいと思います。

ここでは非常に特殊な働きをしたプレアディス連合の話だけをご紹介します。

## PART2 プレアディス連合が地球のアセンションで行った事

私はプレアディス連合の地球担当司令官のパトリスです。

私達のプレアディス連合も、アンドロメダ連合と同じように、地球の人類の創世の時期から、地球に深く関わってきました。

そして現在、私達も、地球のアセンションのための活動を、アシュタール連合、アンドロメダ連合、アルクツールズ連合、そしてシリウス連合と協力して行っております。

連合として活動を行っている場合には、個別の星の者が連合の許可なくメッセージを発したり、連合によって定められた活動以外の事をする事は禁じられておりますので、TAKESHIさんの目には、私達の活動の内容が良くお分かりになられていなかったのではないかと思います。

また、私達の活動の詳しい内容を公開することも、ダーク・ピープル達にとっては、その星を攻撃するための格好の材料となるために、私達のみならず全ての連合は、その活動の内容を伏せておりました。

しかし、9月になりますと、ファースト・コンタクトも始まり、アセンションもかなり完了しますので、地球の人達との直接的な交流も始まります。

そのときには、どのような星の者がどのような活動をしてきたという事も、地球の人々に知ってもらわなければなりませんので、私達の事も詳しくお知らせしたいと思います。

先ずプレアディス連合の目的や役割ですが、私達もアンドロメダ連合と同じように、発展途上の星々に関わる事も良くあります。

しかし、私達は大きな戦力を持ちませんので、ダーク・ピープル達が関わっている場合や武力衝突が予想される場合にはアンドロメダ連合やシリウス連合にその場所はお任せいたしております。

私達は、武力衝突がない星々の人達に対して、愛をもって学びをおこなわせるという事を行います。

たとえば侵略や戦争の問題が解決された後の星に入って、アンドロメダ連合のミラク星の人達と共に、心と体に深い傷を負った人達に対して、愛をもって癒しを行います。

また、心に喜びや希望をもたらすようなエネルギーを使って、その人が立ち直るように指導します。

それは人型の生命だけでなくフェアリーやホビット、マーメイド達、そして動植物に対しても行われます。



TAKESHI さんもお存じのように、私達プレアディスの者達はより高次のフェアリーやユニコーンたちとも深くつながっておりますので、その様な存在に対してもサポートを行う事が出来るのです。

そして、私達のケアは惑星意識やクリスタル意識などに対しても行われます。

アンドロメダ連合の方たちは物理世界に近い方面のサポートが得意ですが、私達はよりスピリチュアルなレベルに対するサポートを得意とします。

また私達は、人々や様々な存在の感情的な問題を解決する事が出来ます。

私達は、相手の感情や相手の意識との同調を得意としますので、心に苦しみを持つ人達や自分本来の意識を妨げられている人達と同調してその問題を解決していくことが出来ます。

しかし、地球においては人々の意識の中に、ダーク・ピープルが入り込んでいることが多く、最初それを知らずに意識同調した仲間達が大変な被害にあってしまいましたので、この方法をとる事を中断しております。

そして、私達は他の連合と同じで大変優れた科学技術力を持っています。

地球のアセンションのために、美樹さんに、特別な遺伝子を加え、多くの星の人達と会話をしたり、目に見えない世界でコミュニケーションをとる事を可能にしたのも、私達プレアディス連合と光のナソール達の科学技術によるものです。

この事によって皆さんは、アシュタールを始め多くのスター・ピープル達と自由に会話をし、共に行動できるようになりました。

もしこの技術がなければ、皆さんとスター・ピープルとのこれだけ密接な共同行動は実現せず、第1次アセンションは成功することがなかったかもしれません。

もちろん皆様方の継続的な努力が一番必要であったという事は言うまでもありません。

私達は、様々な星の人達とのコミュニケーションや文化の交流が可能となるように、異なる種族の間をつなぐ存在を作り出したり、新たなコミュニケーションの方法を生みだしたりすることも非常に得意です。

私達は、昔から地球の第1次アセンションを心から待ち望んでいました。

私達が地球で行っている仕事についてお話ししましょう。

先ず私達は、地球の人々の感情を癒すことで、私達が持っている「愛」のエネルギーを受け取ってもらおうと思いました。

私達が皆さんに送る愛は、「宇宙の愛」へと皆さんを導くものです。

私達はスピリチュアル・レベルだけでなく、物理レベルでもイルカに協力してもらい、私達の「愛」を皆さんに送ってきました。

私達の愛は、皆さんの心から、様々に積み重なった苦しみや悲しみを取り除き、喜びと希望を与えことで、自分自身を制限していた物から自分自身を解き放つ事を可能とします。

そして自分が生きていることに感謝と喜びを持つ事で、自分だけでなく家族や友人たちに対してもゆるぎない愛を持つ事が出来るのです。

私達は、常にその様なポジティブな立場から、皆さんがアセンションする世界に向かえるようにサポートしてきました。

そして心の準備が出来た人から、私達が意識同調を行い、さらなる高い次元にある「宇宙の愛」へと皆さん

を導いていく予定でした。

多くの星では、この方法で星の人々をアセンションさせていくことが出来たのですが、地球では大変なことが起きてしまったのです。

それは意識同調した相手の意識が、すでにダーク・ピープルである地球外生命体とひとつになっている人がたくさん存在していたのです。

私達は本来「純粋な愛」の存在です。

相手を疑うことなく、愛と喜びの気持ちをもって相手の意識の中に入って行ったのですが、相手の中で待っていたのは残忍なダーク・ピープルの意識だったのです。

意識同調を行った者は、エネルギーと光りを奪われ、傷つけられていきました。

最初はその原因が分からなかったのですが、相手の意識の中に、ダーク・ピープルが入り込んでいると分かった時には、多くの仲間達が傷付いていました。

それは現実世界においても、私達と同じように地球の人々に意識同調を行って愛を伝えようとしたイルカたちも多くが犠牲になってしまいました。

私達の主力部隊は一度、治療のために自分達の星に戻り対策を検討しました。

そして意識同調ではない方法で地球の人々に「愛」を教える方法はないかと考えていました。

幸い TAKESHI さん達が、その事に気づいて、人と一体化していないダーク・ピープル達を、光に返したり、彼らの活動や能力を大きく制限してくれたことで、私達も活動しやすくなりました。

また、私達の仲間達がダーク・ピープルによって奪われた光やスピリットもすべて TAKESHI さん達が取り戻してくれたおかげで、傷ついた多くの仲間達も元の状態に戻る事が出来ました。

私達は再度地球に集まり、地球全体に対して愛のエネルギーを送ったり、地球の人々の感情を癒すことを行いました。

これらの活動は、主にプレアディス連合の中でも、人々の癒しを得意とするマイヤ星、メウロペ星、セレーノ星の者達が中心となって行いました。

プレアディスのもう一つの大切な働きがありますが、それは私ではなくアルシオン星のジョシヤの方からお話をしたいと思います。

### PART3 アルシオン星のジョシヤによる報告

私はアルシオン星のジョシヤともうします。

パトリス司令官のもとでエレクトラ星の者と共に次元の分離を担当している者です。

私達が住むアルシオン星とエレクトラ星は非常に高い叡智と科学技術を持っている星です。

この宇宙でも有数の図書館を持ち賢者たちの会議も良く開かれています。

私たちの願いは、天の川銀河とプレアディス星団が、調和がとれた進化を行う事です。

そのために、スター・ピープル達の多くがそうであるように、スピリチュアルな愛の部分と科学技術を両立させながら進化させていかなければなりません。

私達は、この宇宙のダーク・ピープル達の暴挙や多くの星々の戦争なども見てきました。

私達は、平和を深く望んでいます。

そのために、多くの星々の平和をおこなったり、異なる種族の者達が分かり合えるように、お互いの種族の特性を持った存在を生みだしたり、新たなコミュニケーションの方法を生みだしてきました。

しかし、その様な方法では、解決できないこともある事を知りました。

それは、戦争を行っている者が、平和を行う気持ちがなく、相手を支配したい、侵略したいと考えている場合です。

私達は、その様な時の解決法として、お互いの星の次元を分ける方法や愛に基づかない行為を行っている星を次元降下させる方法を開発してきました。

良く皆さんが、星のツアーなどでマザークリスタルを破壊された星や荒くれ者のマスターがいる星などが次元降下していたことを良くご存じだと思います。

もちろん皆さんは、その問題を解決し星の次元を上昇することを何度も行ってくれましたので、この事は誰よりもご存じだと思います。

実はこの方法は、創造主様と私達で考え出された方法なのです。

星を次元降下させたり次元上昇させる技術を開発するために、私達は気が遠くなるほどの時間と労力を使いましたが、この技術のおかげで、他の星を侵略しようとするダーク・ピープル達の動きを抑えることが出来るようになりました。

それは、どこかの星を侵略したり乱暴行為を働いた星の人々は、このシステムによって星ごと次元降下させられることとなりました。

そして、乱暴を働いていた者達が死に絶えたり反省を重ねてアセンションした場合には、再び星は次元上昇することになっています。

この技術は、侵略行為を行った星に対する処罰のほかにも、星々のアセンションにも利用される事になりました。

通常は、ひとつの星がそのままアセンションしていただくです。何の問題もないのですが、地球のアセンションには大変困りました。

創造主さまから、このように言われたのです。

先ず一つの地球を、光の度合いに応じて 30 くらいの別次元に分ける事、そしてそれぞれの次元に、物理的な地球に生きている人々を振り分けて生きる世界を作る事、最後に、ディセンションした世界は核兵器を使用する可能性がある。完全に閉鎖する事。

さすがに私達も目を回しました。

今迄に開発した技術等問題にならないほどの困難さを持っています。

私達は、この宇宙の再興の叡智と言われるデジャビロッド星人やエリシタール星人、そして創造主の皆さんにも力を借り、ようやくこのシステムを開発しました。

このシステムがないことには、地球の第 1 次アセンションは絶対に成り立たないのです。

もちろん今回初めてこのシステムを稼働しますのでトラブルはつきものですが、デジャビロッド星人やエリ

シタール星人にも協力してもらい、常に改良を重ねながらこのシステムを運営してきました。  
そしてもうすぐ、このシステムの最終段階である次元の完全分離が、2016年の9月から行われることとなります。

今回プレアディス連合が、最初から中心的な立場に関わったのは、地球人と私達が以前から深い関係にあるという事もそうですが、この次元分離のシステムに地球のアセンションがかかっているからです。

私達は地球のアセンションの状況を見守っていますと、ダーク・ピープルの代表であるグラッド星人や狂気の創造主が暴れだして、もうだめかと思う事が何度もありましたが、皆さんの力強い団結力のおかげで、何とか次元分離を成功させるまでやってきました。

これから、最終段階ですので未だ気が抜けませんが、最後までプレアディス連合の名誉にかけても成功させたいと思っております。

## 第7章 シャンバラの聖者の来訪

### PART1 シャンバラの聖者からのコンタクト

8月の中旬頃から、私達に対してシャンバラの聖者たちからのコンタクトが始まっていました。最初は美樹さんのもとにコンタクトしてくれたのですが、8月23日の夜に、数名の神官の様な姿をした人達が私達のもとに姿を現してくれました。皆さん3mから5m位もある長身の方達です。

私達も、以前2回ほど星のツアーで「シャンバラ」に行ったことがあります。シャンバラは、1度目と2度目とは異なる世界に入ったようです。これは、その人達の意識状態によって入れる場所が異なっていたようです。しかし、どちらの世界も、とても穏やかで平和に満ち、美しい世界でした。そこに住んでいる方も、聡明で愛に満ち溢れた人達で、レムリアやムーの古代文明とも深いつながりがある場所です。しかしシャンバラの秘密は奥深く、私達にとってはまだ未知の世界です。

私はエレナさんやロッド星人を呼び一緒に話をすることにしました。エレナさん達とはもうすでに知り合いのようで、この地球のアセンションにも協力してもらっていたようです。いつもの事ですが、知らないのは私達だけのようです。

「TAKESHIさん、シャンバラの聖者たちは、とても聡明なスター・ピープルです。すでに第3次アセンションを終了されているようで、とても高い波動を持ち、他の星々に対しても進化のためのサポートを行われている方達です。地球のアセンションに対しても非常に素晴らしい意見や情報を私達に提供して下さっています。」

私は、シャンバラの聖者の事は知っていましたが、エレナさん達よりも高い第3アセンションを終え、他の星々の方たちのサポートにまで行かれていることに驚いています。もちろん、地球の内側から地球に対しても多くのサポートを行ってくれていたことは間違いのないようです。私はシャンバラの聖者の言葉に耳を傾けることにしました。

シャンバラの聖者は落ち着いた静かな声で語り始めます。「地球のアセンションが進み、皆さんとこのような形でお会いできることを私達は長い間待っていました。TAKESHIさんは覚えていないかもしれませんが、あなたがレムリアの神官をしていた時に、良く私達のシャンバラへ来て頂きました。私達は、このシャンバラで、常に地球のために祈り続けています。古代レムリア人やムー人、そして初期のころのアトランティスの人々、アガルタの人々も、その当時は私達と共に、地球と宇宙に対して祈りを行って来ました。私達は、古くから仲の良い友人であり、地球の人々を進化させるために努力してきましたが、アトランティ



スやレムリアが崩壊したことにより、地上の人達との交信が途絶えてしまいました。

時折、私達の意識と同調して、意識体でシャンバラに入ってくる方もありましたが、古代エジプトのファラオ達を除き、地上の人々の進化に影響を及ぼすほどのコミュニケーションを取ることはできませんでした。

私達は、地球の地下に異なる次元を作り、そこに生きています。

物理学的には存在しない場所ですが、スピリチュアル的には存在しています。

私達も、かつては肉体を持っていましたが、いくつかのアセンションを超えて、肉体のない体になりました。そうしなければ、地球の地表に住んでいる人々の感情のエネルギーや戦争、特に核兵器の使用によるネガティブなエネルギーに大きな影響を受けてしまうからです。

私達の役割は、この地球の地下の次元で、常に地球のコアのエネルギーを守り、地球を安定させることです。そして、地球の表面に住んでいる人達をサポートして意識の進化を行わせる事です。

しかし、地球の人々の多くが、ダーク・ピープルの影響を受けていますので、地球の人々の意識進化はなかなか進みませんでした。

いつも戦争や殺し合い、奪い合いばかりを行い、地球の環境や地球に生きる多くの生命達に負担をかけ続けています。

本来は清らかで純真な心を持った人間達ですが、いつしかその純粋な心を奪われ、自己中心的な生き方をするようになってしまったのです。

私達は、地球人がそうならないように祈り続けてきました。

地球の人達の素晴らしい愛が傷つけられないように、守っていた事もありました。

しかし地球は、核兵器や原子力発電の発明によって、危機的な状況を迎えています。

第2次世界大戦の時に核兵器が使用させられたことにより、地下にいた私達にも大きな被害が生まれましたし、地球から遠く離れている星々に対しても恐るべき被害が起きました。

私達は、このままでは、地球は多くの星々に対して取り返しがつかない被害を起こしてしまうのではないかと思います、宇宙連合とも相談してきました。

そして、創造主達の考えにより、光ある者達の修行の場として使用してきた地球の役割を終了させ、地球をアセンションする地球とディセンションする地球に分けていただくことにしたのです。

地球の核兵器や原子力発電は、ダークピープルである地球外生命体により、科学技術を与えられ作られたものです。

地球人は、その恐ろしさをまだ知りません。

しかしダークピープル達は、この核兵器を使用して、地球のみならず他の星々も支配しようとしています。

それはシリウス星系でも起こったことです。

地球を見守ってきた私達としては、それはもっとも避けなければならないことです。

そのために、私達も、様々な働きかけを地球人に行ってきたのですが、成功しませんでしたので、地球の2分化を行うしかないと考えました。

そうすることで、核兵器や原子力発電をディセンションした世界に封じ込め、一般の星々の人に対して被害が広がらないようにしたいと考えています。

しかし、アトランティス文明が、科学技術が暴走して壊滅した時から、地球人は大きなカルマに飲み込まれたようです。

それは、ダークピープル達の遺伝子操作や心理操作によるものですが、それを受け入れたのもまた地球人です。

私達は、同じ地球人として、その過ちを償い補わなければなりません。

私達、シャンバラ人は、地球がアセンションしてある一定の波動を持つ人達ばかりになった時、地球上に現れようと思います。

私達は、スピリットですからどのような姿でも取れますし、地上の地球人と深く関わる事で、地球を愛によって守っていきたいと思います。

私達は、私達が、長い間かけて育ててきた叡智を地上の人達と分かち合う事にしましょう。」

## PART2 愛の苦しみを癒し「宇宙の愛」へとつながる

私達の部屋は、シャンバラの聖者たちの優しい波動に満ち溢れています。

すると、私の意識が、サードアイから抜けていくような感じがします。

意識が私の頭の上空のところにとどまると、私の周りにシャンバラの聖者やエレナさん、アンドロメダ連合のガジェットさん、そしてロッド星人達の姿も見えます。

どうやら、シャンバラの聖者たちのエネルギーによって、私の意識がどんどん上昇していくようです。

今まで、スター・ピープル達の姿が見えることはなかったのですが、意識が上昇してくると確かに彼等の姿が見えるようになってきました。

私の中にある遺伝子が大分修復され、私の能力が活性されてきたことで、意識が上昇しやすくなっているようです。

すると私の中に、いろんなスター・ピープルの意識が流れ込んできます。

彼等は、私の中にある様々な感情やエネルギーを浄化しようとしてくれているようです。

特に、私の中でわだかまっていた感情があります。

それは「人を愛すること、愛されること」に対する恐れの中の感情です。

地球の人々の多くが持っている感情ですが、この感情がある事によって地球人の愛の度数が上昇していかないのかもしれないかもしれません。

私の脳裏に、今迄の人生の中での悲しい出来事が様々とよみがえってきます。

両親への思いや結婚した人との出来事が、いくつも蘇り、その思いを光に返していきます。

私は、地球に生れる前にもさかのぼり、様々な星で経験したことも思い出し光に返します。

すると次に、「宇宙の愛」の意識が入り込んできました。

耳を澄ませば、多くの人の声が聞こえてきます。

私達に助けを求める声や自分達の哀しみを訴える声、怒りや苦しみを訴える声もあります。

私は、一つ一つの声に意識を集めれば、その声がしっかりと聞こえるような気がしますので、その声に私が持っている愛を送りながら声をかけていきます。

私の指先からキラキラと光がはなたれ、その声の人のところに届くと、苦しみや悲しみが癒されていくようです。

私は更にエネルギーを上昇させていくと、漆黒の宇宙に出ます。

漆黒の宇宙はさびしく遠くで冷たく星が輝いているだけですが、私が意識を切り替えると、星々は明るく光を放ち、自らの存在をアピールするかの如く、様々な色に点滅したり、音楽を奏でたりするのです。

私とそのひとつに手を伸ばすと、その星からのメッセージも伝わってきます。

星に生きる人々の愛と喜びの感情や希望に満ちあふれたパワフルなエネルギーが伝わってきます。

もちろん、一つ一つの星によって、星が持つ感情は異なるようですが、私のスピリットはそのエネルギーを受け取ることができるようです。

私はしばらく「宇宙の愛」について考えていました。

すると、頭の頭頂部のところがジンジンと熱くなります。

この頭頂部にかぶさっている小さな帽子のようなものが、私がこれ以上の世界にはいる事を邪魔しているようです。

私は、これは何かとロッド星人に尋ねると

「これはあなたが今まで地球人として生きていくために必要だったものです。

あなたは会社を経営しているので、統率力や経営上必要な能力などの象徴としてありますが、光の世界になると、全ての人が自発的に必要なことをしますので、このエネルギーも全く不要になります。」

これは、私が現実社会で生きていくために必要なエゴみたいなものです。

地球上の多くの人達が、このようなエネルギーを持って生きていますが、アセンションした世界には必要がないようです。

私は、そのエゴも手放していきます。

スター・ピープル達が、優しいエネルギーを使って私を支えてくれます。

これが、アセンションした後の世界なんだと、私はスピリットの意識で感じています。

2016年8月24日

# 光りの世界の区分（極秘事項）

## ○光りの世界の区分

ここでは、まず光の地球といっても一つではなく、光に応じていくつもの地球に分かれていることをお知らせしておきます。

そして、ここでは大まかに60%台、70%台と書いていますが、本当は、1%単位で世界が異なっていますが、大まかな区分のみで説明させていただきます。

今の地球の光と闇の割合は、およそ光40%、闇60%、もしくはもう少し闇の割合が多い世界のようなようです。この割合の世界では、まだ闇の力が強いので、戦争やテロ、殺人や虐待、人種差別などが起こりますが、光の割合が50%を超えると、戦争や殺人などもほとんど起こらなくなりますが、まだ学びが必要な人には、その学びにふさわしいことが起こります。

60%台になると、愛と調和に満ちた人々が増えてきますので、人間としての完成を目指すような学びが始まります。

しかしそれは争いなどの人を傷つけることではなく、どれほど愛を注げるか、とかどれほど人のために尽くせるかなどといった、とてもポジティブな学びになります。

また人々も、言葉でなくいしそつうができるようになりますので、嘘をついたり心の中に隠し事ができなくなるような世界になるかもしれません。

そしてさらに大切なことは、地球外生命体達に対する理解が求められるようになります。

更に光りの度合いが70%よりも強くなると、学びが少なくなり、愛と共に生きるようになりますので、争いや差別などもほとんど起こらずに調和に満ちた世界が繰り広げられます。

生きている人では70%台が最高クラスになるようです。

更に光りの割合が80%を超えると、もう物理世界に生きている人はほとんどいなくなり、光の地球の存在として宇宙の運営に関わる仕事を始めることでしょう。

それでは、どのような人がどのような世界に入れるか、創造主の極秘事項ですが、こっそりお教えしますので、少しでも上の世界に入れるよう努力してください。

またこのことは、私達の主観ですので、違うと思う人は信じる必要はありません。

人間は自分の心の光の状態に応じていく世界が決まります。

学びが多い世界も愛と調和に満ちた世界も、全てあなたのために必要な世界です。

**光が多い地球**

光80~60%  
地上でスターピプルと共に活躍する  
平和な世界

光60~53%  
宇宙意識に目覚めるための学び  
の世界

光80~100%  
宇宙のマスターとして活躍する非物質的な世界

光53~47%  
光りと闇の境界、どちらの世界に行くか決める世界

光30~40%  
今よりもはるかに闇が多く犯罪が横行する世界

光40~47%  
現在の地球と同じで争いが多い学びの世界

**闇が多い地球**

光50%以上の世界は宇宙意識に目覚めアセンションする世界  
50%以下はまだ学びが続く世界

光100%の世界 宇宙のマスターの世界	宇宙の管理者としての地球で働くスピリチュアルな存在達の世界。 憎しみや争いなどとは無縁で愛と調和のみが存在する世界。 マスターレベルの人達がいる場所で、生きている人は数名しかおらず、その人たちももうすぐこの世から離れていく。
光90%台の世界 宇宙のマスターの世界	宇宙の管理者となるべく学びを行う世界。 争いなどはなく、自らが愛と光りになるために学びを行う。 ここに入る人は、地球で起きていることをすべて理解し、常に真実を求め努力してきた人。 地球の中にある不正を知り、それを正すために戦い、地球と地球に生きる人々を自由で平和な者にするために、常に努力してきた人々。 この地球の闇を知りながらも、憎しみを捨て愛によって生きてきた人たち。 人間としてのエゴを捨て、自分の人生を他人のために奉仕してきた人。
光80%台の世界 地球に生きるマスターの世界	光90%の人達と同じように、地球の闇と闘い続けてきた人達の中で、未だ程よいエゴを持ち、生活を楽しまたいと考えて生きてきた人々。 この世界では、自分のエゴや欲望を捨て、愛の人として生きる実践を行う。 また地球外生命体達のことを深く知り、彼らと共に働ける人。



	<p>自分の感情に振り回されずに常にニュートラルな立場にあって真実を追い求める人 地球と人の事を、愛をもって考え行動してきた人達が、肉体を失った後に行く世界。 現実世界に生きる人も少数存在し、地球の人たちが光りの世界に行くためのサポートをスピリチュアル・レベル、現実レベルで行う。</p>
<p>光70%台の世界 物理的な光の地球 での指導者の世界</p>	<p>常に正義と愛のために生きてきた人の中でも、程よい欲があり向上心がある人。 欲望に振り回されず、欲望と感情を上手にコントロールできて、自分の中の光と闇を統合してきた人。 地球外生命体のことを理解し上手に付き合うことができる人 この世界は、さらに上の世界に行くための通過点として、学びを行う人たちが入る世界。 少数民族の人たちの仲でも、一般社会を知りながらも、その社会に毒されず、常に祈りを行ってきたシャーマンや神官、少数民族の文化やしきたりを守ってきた人々。 ここに属する人は、これからの「光の地球」をしっかりと守護し、人々を導いていく立場にある。 いくつかの世界に分かれる光りの地球に、それぞれが配置され、世界を守護していく。</p>
<p>光60%台の世界 宇宙意識に目覚めるための世界</p>	<p>地球や宇宙の仕組みを学ぶために生きてきた人達で、さらにその学びを続ける人。 しっかりと愛や調和を目指していききたが、まだ十分にそのことが実現出来ておらず、自分の中の光と闇もしっかりと統合できていない人。 周りの人に対して愛と奉仕の気持ちを持って生きてきたが、今まで宇宙や地球に対しての理解も十分でなく地球外生命体達の事もよく知らない人達が、其のための学びを行うための場所。 この世界ではおおきな争いや戦争、差別や虐待もなくなり、地球人同士でも愛に基づいた関係がはじまり、安らぎと光りに満ちた世界が生まれてくる。 少数民族でも、あまり物質社会を経験していない素朴な人達がいく世界。彼等はここで更なる学びを行う。 この世界に入れる人は、この地球でもまだわずかです。 この世界に入ると、今迄の地球とは格段と異なる世界に来たということが分かるでしょう。 どうかこの世界に入れるように努力してください。</p>
<p>光60%～56%の世界 光が多い学びの世界  2016年8月に56%以上に変更</p>	<p>ここから上が光の世界です。 今の地球よりはさらに光がある世界で、今よりは、戦争や争い、虐待、殺人などは減り、お互いを思いやることが普通にできる世界。 今の世界よりは、愛と調和に満ち、人間同士の争いや自然破壊などもなくなり環境問題も解決していく。 ここに行く人は、今の世界でも良心を持って生きてきた人で、人の役に立ちたいと考えてきた人。 強い欲望や支配欲を持った人や人と争うことが好きな人は入れない。 人をだました人、人に不正を働く人、自己中心的な人は入れない。</p>

<p>光 55%～47% の世界 光と闇の境界の世 界</p>	<p>ここは光りの世界と闇の世界の境界線にあたる世界で、中間の世界とも呼ばれていま す。 まだ行く先が決まっていない人や普通に生きてきた人達はこの世界に入ることが多 いようです。この世界からどの世界に行くか決まるようです。 スピリチュアルな仕事をしている人でも、物欲や支配欲、名誉欲のためにしている人 は、ここからさらに下の世界に行くこととなります。</p>
<p>光 40%～47% の世界 現在の地 球と同じ学びの世 界</p>	<p>ここからが、アセンションとは反対にディセンションした世界となります。 光 40%台の世界は、今までとほとんど変わらない世界で、戦争や争い、テロ、詐 欺、レイプ、傷害などが日常的に起こっている世界です。 経済的な侵略によって、世界の人々は貧富の差が激しくなり差別を受けます。 宗教、技術、論理もすべてが争いのために利用されます。 この世界に行く人は、自然災害や戦争、原発の事故なども含め、現在の地球が体験す る未来とともに体験することとなります。 光が多い世界に行くための努力をしない人や自分や他人にたいして不誠実な生き方 をしてきた人は、この世界にそのまま残るようです。</p>
<p>光 30%台の世界 闇が多い学びの世 界</p>	<p>今の地球よりもさらに闇が多くなりますので、現在よりも状況がはるかに悪くなりま す。 戦争やテロが多発し、多くの人が争いや原発事故、自然災害に巻き込まれ苦難の多 い人生を送ることになるでしょう。 そして人々はその中で多くの事を学び目覚めていくための機会を待つことになると 思います。 この世界には、多くの欲望に取り付かれ、他人を支配したり傷つけることを好んで行 ってきた人たちがいく世界になると思います。</p>